DENON

## ホームシアターシステム

# DHT-M380

## 取扱説明書


ご使用になる前に ………… 3 ～ 13

基本操作 ………… 14 ～ 19

接続のしかた ………… 19 ～ 21

操作のしかた ………… 22 ～ 40

その他について ………… 41 ～ 43


**安全にお使いいただくために－必ずお守りください。**

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

ホームシアターシステム DHT-M380 は、AV サラウンドアンプ（AVC-M380）とスピーカーシステムパック SYS-M380（フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380 × 4 台）、センター用スピーカー（SC-CM380 × 1 台）とサブウーハー（DSW-M380 × 1 台））で構成されています。

# 総目次

## ご使用になる前に


**安全上のご注意** …… 3、4
**取り扱い上のご注意**
AV サラウンドアンプ（AVC-M380）…… 5
設置の際のご注意…… 5
その他のご注意…… 5
お手入れについて…… 5
使わないときは…… 5
スピーカーシステムパック SYS-M380
（SC-AM380、SC-CM380、DSW-M380）…… 6
設置の際のご注意…… 6、7
**主な特長** …… 8
**付属品について** …… 9
**保証とサービスについて** …… 9
**各部の名前とはたらき**
フロントパネル…… 10
リアパネル…… 11
**リモコンについて**
乾電池の入れかた…… 12
リモコンの使いかた…… 12
リモコンボタンの名前とはたらき…… 13


## 基本操作


**簡単に DVD ホームシアターを楽しむ**
スピーカーシステムの接続……14 ～ 16
クイックセットアップのしかた…… 16、17
DVD プレーヤーと TV を接続する …… 18
DVD ソフトをサラウンド再生する …… 19


## 接続のしかた


**BS、地上波デジタルチューナーや VTR 音声の接続のしかた**
…… 19、20
**D-M33 シリーズ機器とのシステム接続のしかた**… 20、21


## 操作のしかた


**ポータブル機器と接続して使う** …… 22
**サラウンド機能の操作のしかた**
サラウンド再生の前に…… 22、23
入力モードの設定…… 24、25
オートデコードモードでの再生のしかた……26 ～ 28
ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた
…… 29
DSP サラウンドモードについて …… 30
ドルビーヘッドホンでの再生のしかた…… 31
その他の操作のしかた……32 ～ 35
**サラウンドについて**
ドルビーサラウンドについて…… 35、36
DTS デジタルサラウンドについて …… 37
DTS-96 / 24 について …… 38
AAC について …… 38
ドルビーバーチャルスピーカーについて…… 39
ドルビーヘッドホンについて…… 39
**スリープタイマーについて** …… 39
**システム機能について**
オートパワーオン機能…… 40
オートファンクション機能…… 40


## その他について


**ラストファンクションメモリーについて** …… 41
**マイコンの初期化について** …… 41
**故障かな？と思ったら** …… 42
**主な仕様**
AV サラウンドアンプ（AVC-M380）…… 43
スピーカーシステムパック SYS-M380
（SC-AM380、SC-CM380、DSW-M380）…… 43

# ご使用になる前に

## 安全上のご注意

**正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。**

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

**絵表示の例**
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意
△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止
⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け
● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

## ⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

**万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く**

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

**ご使用は正しい電源電圧で**

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

**電源コードは大切に**

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

**電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは**

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

**内部に水などの液体や異物を入れない**

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

**水をかけたり、濡らしたりしない**

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

**ねじを外したり、分解や改造したりしない**

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

**雷が鳴り出したら**

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

**乾電池は充電しない**

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

**風呂・シャワー室では使用しない**

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

**この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない**

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

# ⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意 / 禁止

### 付属の電源コードを使用する
他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施 / 禁止

### 電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

### 電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

### 電源プラグを抜くときは
電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

### 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

必ず実施

### 機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

### 電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

### 長時間音が歪んだ状態で使用しない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施 / 禁止

### 電池を交換するときは
- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

### ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

### 不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

### 次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

### 壁や他の機器から少し離して設置する
放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

### 通風孔をふさがない
内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

禁止

### この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

### 重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

### 移動させるときは
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

### 長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

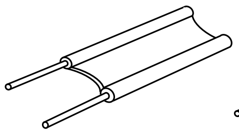
### 5 年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

# 取り扱い上のご注意

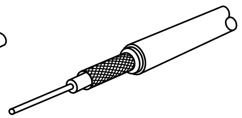
## AV サラウンドアンプ（AVC-M380）

### 設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。
- ◎ 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。
- ◎ チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。
- ◎ 特に室内アンテナや 300 Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび 75 Ω同軸コードのご使用をおすすめします。

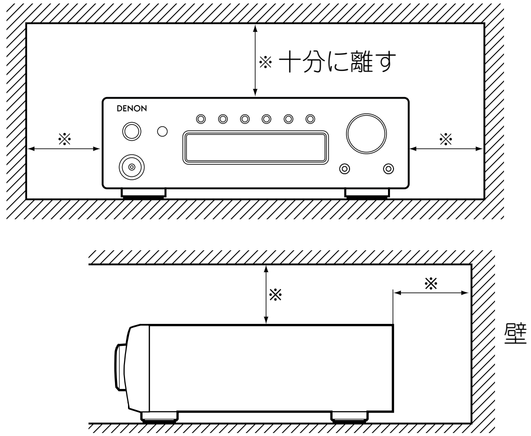


300 Ωフィーダー線



75 Ω同軸コード

■ 放熱のため、アンプユニットの天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。（下図参照）




### その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ AV サラウンドアンプの天板に付いているシートは取り外さないで使用してください。

■ スピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後、非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

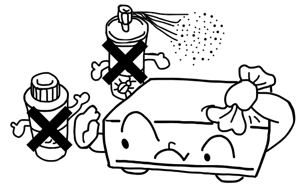
■ 説明のためのイラストは、原型と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

## お手入れについて

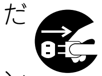
■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- ◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

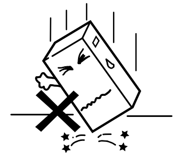


## 使わないときは

■ **ふだん使わないとき**
- ◎ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてください。
- ◎ 外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



■ **移動させるとき**
- ◎ 衝撃を与えないでください。
- ◎ 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。



## スピーカーシステムパック SYS-M380（SC-AM380、SC-CM380、DSW-M380）

**設置の際は設置場所・設置方法の安全性を十分ご確認ください。**
**スタンド、ブラケットなどを使用する場合はそれらの説明書に従い、安全性を確認の上ご使用または設置してください。落下によるいかなる損害、事故についても当社はその責を負いません。**

## 設置の際のご注意

**スピーカーシステムの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。**

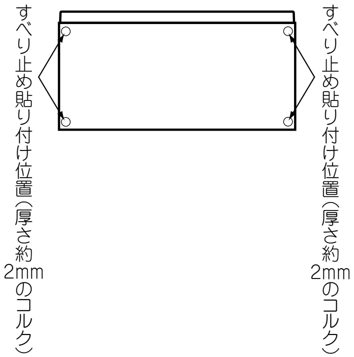
■ スピーカーシステムをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置するとハウリングを起こすことがありますので、ご注意ください。

■ スピーカーシステムの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合には、共振や反射を防止するために厚手のカーテンなどを掛けるようにしてください。

■ **スピーカーシステムパック SYS-M380（SC-AM380、SC-CM380、DSW-M380）**はテレビとの近接使用が可能な防磁形スピーカーシステムですが、テレビの種類によっては色むらを生じる場合があります。その場合には一度テレビの電源を切り、15 ～ 30 分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁回路により、画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離してください。

■ **センター用スピーカー（SC-CM380）**を台などの上に設置する場合、付属のすべり止め（厚さ約 2mm のコルク）を底面のコーナー 4 ケ所に貼ってください。（下図参照）
床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。

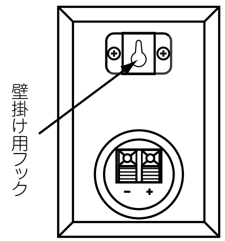
【センター用スピーカー（SC-CM380）底面図】



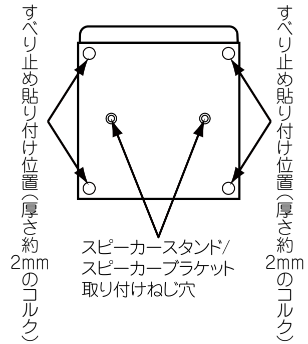

ご使用になる前に

■ **フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）**を台などの上に設置する場合、付属のすべり止め（厚さ約 2mm のコルク）を底面のコーナー 4 ケ所に貼ってください。（下図参照）
床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。必要に応じて、別売りの床置きスタンド（ASS-100、ASS-80）、天井吊りブラケット（ASG-10、ASG-20）のご使用をおすすめします。
※ スピーカーとスタンドとの取り付けは、スタンドに付属の取り付けねじを使用して、スピーカー底面の取り付けねじ穴（ナット）にゆるみがなくなるまで完全に締め付けてください。

【フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM380）背面図】




【フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM380）底面図】




■ **フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）**を壁に掛けて使用する場合、フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）の背面にある壁掛け用フックを利用して壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にネジ頭などを差し込みます。（上図参照）スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。落下によるいかなる損害・事故についても当社はその責を負いません。

**ご注意**

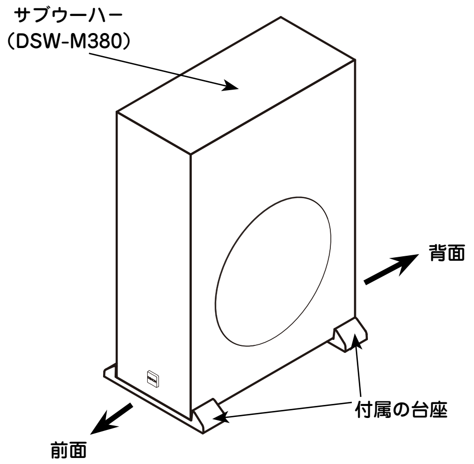
- 安全にお使いいただくため、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- スピーカー側面に力が掛かった場合、スピーカーが落下する恐れがあります。けがなど重大事故の原因になりますので、十分注意してください。

■ **フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）**をスタンドまたはブラケットに取り付ける場合
フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）の底面には M5 のナットが 60mm 間隔で埋め込まれています。別売りの床置きスタンド（ASS-100、ASS-80）、天井吊りブラケット（ASG-10、ASG-20）に取り付けることができます。取り付けに際しましては、ブラケットやスタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと設置してください。

■ **フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）**を天井吊りブラケットに取り付けた際に取り付けの角度により逆さになります。

■ **サブウーハー（DSW-M380）**を付属の台座に設置する場合、下図のようにサブウーハーの前面及び背面に合わせて台座をそれぞれ設置してください。

【設置例】




**ご注意**

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

■ 近くにマグネット（磁石）など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますのでご注意ください。

【例】
- ラック、置き台などの扉に装着されたマグネットがあるとき
- マグネットを用いた健康器具などが近くに置かれているとき
- その他、マグネットを使用した玩具などが近くに置かれているとき

■ **サブウーハー（DSW-M380）**の上にレコードプレーヤー、DVD プレーヤーなどを置くと針とび、音とびを起こすことがあります。このような場合はレコードプレーヤー、DVD プレーヤーを別の場所に設置してください。

■ 長時間直射日光を受ける場所やストーブなどの暖房器具の近くに置くことは避けてください。

■ 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置きますと、故障の原因となる場合があります。

■ スピーカーシステムパック（SYS-M380）のスピーカーユニット保護用サランネット・グリルを取り外すことはできません。無理な取り外しは、破損やけがの原因となりますのでご注意ください。

**警　告**

- 天井や壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- スピーカー接続コードを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、コードは必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故についても当社はいっさいその責を負いません。

## 主な特長

**1. ドルビーデジタルデコーダー搭載**

デジタル・ディスクリート方式のドルビーデジタルは、各チャンネルが独立して記録されているため、再生時のクロストークが極めて小さく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をよりリアルに再現。また低音効果用の 0.1 チャンネルを除く 5 チャンネルは、CD と同等以上の再生帯域を持ち、より表現力豊かでクリアな音の再現を実現しています。

**2. DTS デコーダー搭載**

再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SR の 5ch に加えて LFE 0.1ch を持つ 5.1ch で、他にステレオ 2ch モードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配はありません。DTS はドルビーデジタルに対して比較的高いビットレートとなり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。

**3. パーソナルメモリープラス機能を採用**

従来のパーソナルメモリー機能をさらに進化させ、すべての入力ソースに対し、それぞれにサラウンドモードを自動的に記憶します。

**4. ドルビープロロジック II デコーダー搭載**

ドルビープロロジック II は、ステレオソースを 5 チャンネルで全帯域再生します。音楽再生に適した MUSIC モード、映画再生に適した CINEMA モード、ゲームをお楽しみになる場合に適した GAME モードに対応しています。

**5. AAC デコーダー搭載**

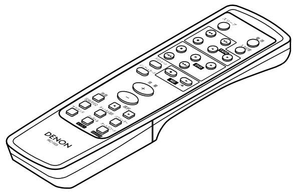
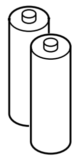
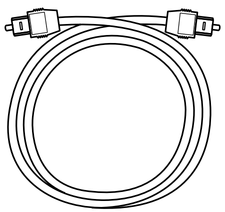
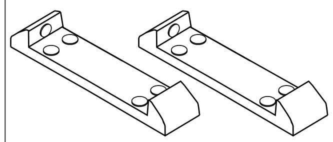
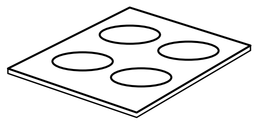
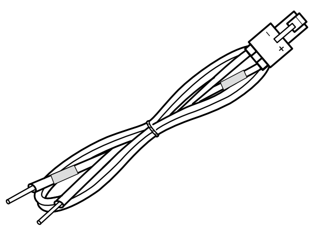
BS デジタル放送、地上デジタル放送にて使用される 32kHz から 48kHz までのサンプリング周波数と、LC プロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大 5.1ch のデータに対応しています。

**6. ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビーヘッドホン機能搭載**

限られたスピーカーで、5.1ch サラウンド仮想音場を再現するドルビーバーチャルスピーカーを採用しました。(ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーの専有技術です。)
フロント、サブウーハーだけで再生する 2.1ch モードと、センターチャンネルを追加した 3.1ch モードおよび 5.1ch 再生時フロントチャンネルの音場を拡大する 5.1ch(wide) モードを搭載しています。
また、夜間などスピーカー再生できない環境でも、お手持ちのステレオヘッドホンで迫力サラウンド音場が楽しめるドルビーヘッドホン機能を搭載しています。

## 付属品について

本体とは別に下記の付属品が入っています。ご使用の前にご確認ください。

| | | |
|---|---|---|
| **取扱説明書（本書）**<br>**……………………………1 冊**<br>**製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 … 1 枚**<br>**保証書**<br>（梱包箱に貼り付けられています。） | リモコン（RC-1025）<br>…………………………… 1 個<br> | 単 4 形乾電池 ………… 2 本<br> |
| 光伝送ケーブル ……… 1 本<br>（長さ：0.9m）<br> | サブウーハー用台座<br>…………………………… 2 個<br> | すべり止め（1 シート 4 個）<br>…………………………… 5 枚<br> |
| **接続コード A（長さ：約 10m）…………………………2 本**<br>※ サラウンド用スピーカー（SC-AM380）の接続に使用します。<br>（接続コードのプラグおよびラベル色：青色 / 灰色）<br>**接続コード B（長さ：約 3m）……………………………4 本**<br>※ フロント用スピーカー（SC-AM380）センター用スピーカー（SC-CM380）サブウーハー（DSW-M380）の接続に使用します。<br>（接続コードのプラグおよびラベル色：白色 / 赤色 / 緑色 / 紫色） |  | |

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

## 保証とサービスについて

1 この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

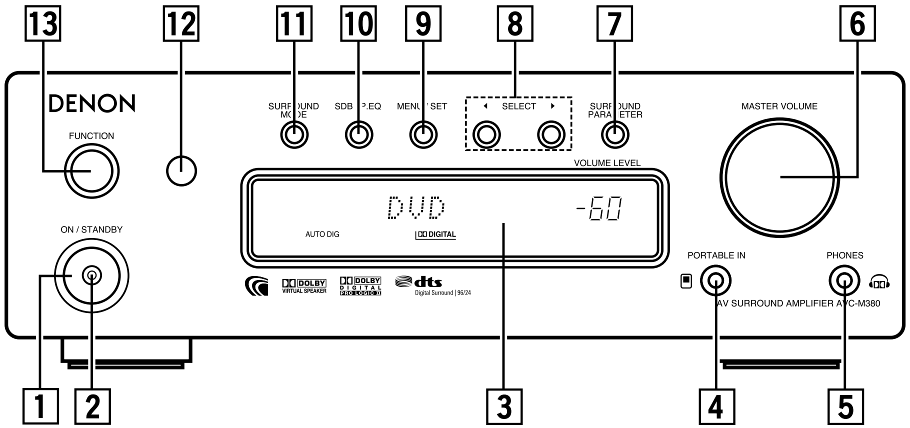
6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

# 各部の名前とはたらき

## フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。




1 **電源ボタン(ON/STANDBY)**
- 押して『ON』にすると電源が入り、もう一度押すとスタンバイ状態になります。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (19)

2 **電源表示インジケーター**
- スタンバイ状態のときに赤色に点灯します。(電源コードをコンセントから抜いたときに消灯します。)
- ミュート時には、緑色に点滅します。(約 1 秒に 1 回)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (19)
- 動作状態では緑色に点灯します。
- 温度上昇による保護回路動作時に、赤色に点滅します。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (14)

3 **ディスプレイ**
- 入力モードやサラウンドモードが表示されます。

4 **ポータブルジャック(PORTABLE IN)**
- お手持ちのポータブル機器の音声出力端子に接続するとポータブル機器の音楽を聴くことができます。 ・・・・・・ (22)

5 **ヘッドホンジャック(PHONES)**
- ヘッドホンでお楽しみいただくときに使用します。(ヘッドホンは別売り、ステレオミニプラグ対応)
- ヘッドホンを差し込むと、音声はヘッドホンからのみ聞こえ、スピーカーからの音声は聞こえなくなります。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (31)

6 **主音量調節つまみ (MASTER VOLUME)**
- 音量を調節します。
- つまみを右(Ω)に回すと音が大きくなり、左(Ω)に回すと小さくなります。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (19)

7 **サラウンドパラメーターボタン (SURROUND PARAMETER)**
- 再生中のサラウンドモードに関係するサラウンドパラメーターを切り替えます。選択はセレクト ◀,▶ ボタンでおこないます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (26)

8 **セレクトボタン(SELECT◀,▶)**
- 各種モードの選択に使用します。▶ ボタンで次へ進み ◀ ボタンで戻ります。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(17, 22, 23, 25 〜 33)

9 **メニュー / セットボタン(MENU/SET)**
- 電源オン時は押すと本機の各種機能の確認ができます。(ステータス表示モード) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (25)
- 電源スタンバイ時に 2 秒以上押すとクイックセットアップモードになり、各種設定ができます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・ (17)

10 **スーパーダイナミックバス / プリセットイコライザーボタン(SDB/P.EQ)**
- SDB や各種イコライジングで好みの音質で楽しむときに押します。 ・・・ (32)

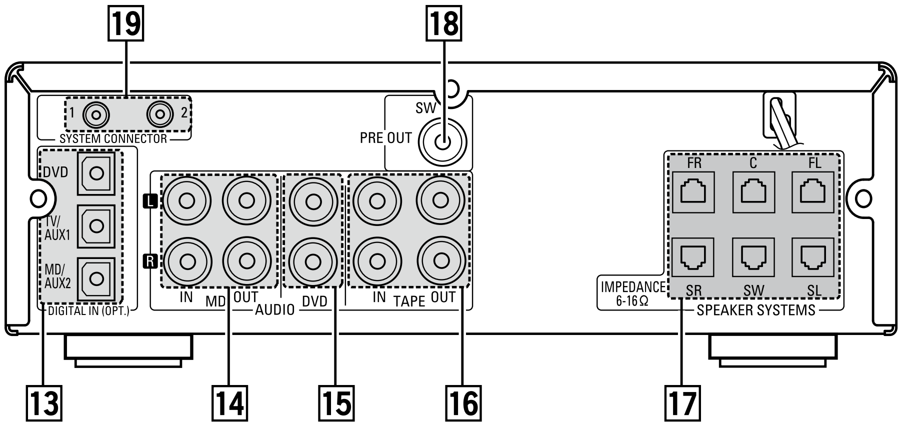
11 **サラウンドモード切り替えボタン (SURROUND MODE)**
- サラウンドモードを切り替えるときに使用します。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (24)

12 **リモコン受光部**
- リモコン(RC-1025)をこの受光部に向けて操作してください。 ・・・・・・ (12)

13 **ファンクション切り替えつまみ (FUNCTION)**
- 入力を切り替えるときに使用します。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (24)

## リアパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。




**13 デジタル音声入力端子（DIGITAL INPUTS）**

- DVD プレーヤー、BS デジタル / 地上デジタルチューナーなどのデジタル音声出力（OPTICAL）端子と光伝送ケーブル（角形）で接続します。 ……………………………………（18, 19）

**14 アナログ音声入出力端子（MD INPUT/OUTPUT）**

- MD レコーダーなどの録音入力（LINE IN または REC）端子および再生出力（LINE OUT または PB）端子をピンプラグコードで接続します。 （20, 21）

**ご注意**

- 本機の MD(OUT)端子は DVD または TAPE(IN)端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。デジタル音声入力端子に接続された機器からの音声信号は出力されません。
- 同様に本機の TAPE（OUT）端子は DVD または MD（IN）端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されます。
- また、MD や TAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源を ON にしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。

**15 アナログ音声入力端子（DVD）**

- DVD プレーヤーなどのアナログ音声出力（ANALOG OUT）端子とピンプラグコードで接続します。 ……（18）

**16 アナログ音声入出力端子（TAPE INPUT/OUTPUT）**

- テープデッキなどの録音入力（LINE IN または REC）端子および再生出力（LINE OUT または PB）端子をピンプラグコードで接続します。 ……………………………………（20, 21）

**17 スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS）**

- フロント用スピーカー（SC-AM380）とスピーカー端子（左（FL）/ 右（FR））を付属のスピーカーコード B で接続します。
- センター用スピーカー（SC-CM380）とスピーカー端子（C）を付属のスピーカーコード B で接続します。
- サラウンド用スピーカー（SC-AM380）とスピーカー端子（左（SL）/ 右（SR））を付属のスピーカーコード A で接続します。
- サブウーハー（DSW-M380）とスピーカー端子（SW）を付属のスピーカーコード B で接続します。 ………（14）

**18 サブウーハープリアウト端子（SW PRE OUT）**

- お好みにより市販のアンプ内蔵サブウーハーを市販のピンコードを使用して接続することができます。

**19 システム端子（SYSTEM CONNECTOR 1, 2）**

- MD レコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）を組み合わせて使用するときに、これらの機器に付属のシステムコードで接続します。 ……………………………（20, 21）

**ご注意**

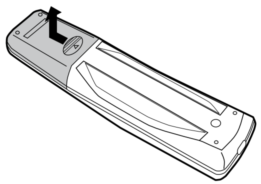
本機と組み合わせてシステム動作が可能な機器は DMD-M33、DRR-M33 のみです。他の機器（CD プレーヤーや CD レコーダー、チューナーなど）を接続しても、システム動作はしません。

## リモコンについて

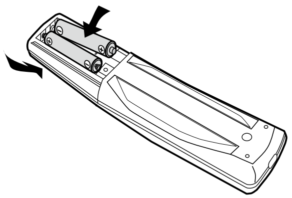
付属のリモコン（RC-1025）を使うと、離れたところから本システムをコントロールすることができます。

## 乾電池の入れかた

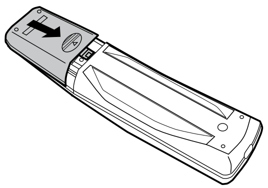
① 矢印のように押してスライドさせ裏ぶたを外します。



② 単 4 形乾電池（2 本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



③ 裏ぶたを元通りにしてください。



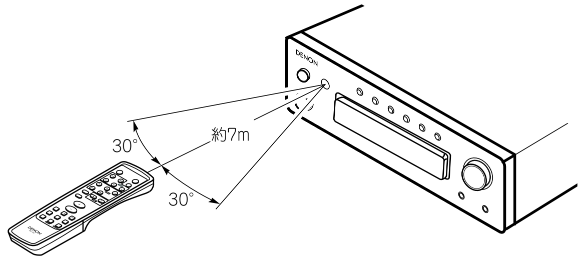
**ご注意**

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約 1 年毎に新しいものと交換してください。
- 1 年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損、液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

ご使用になる前に

## リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。
- 直線距離で約 7m 離れたところまで使用できますが障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右 30° までの範囲で操作できます。

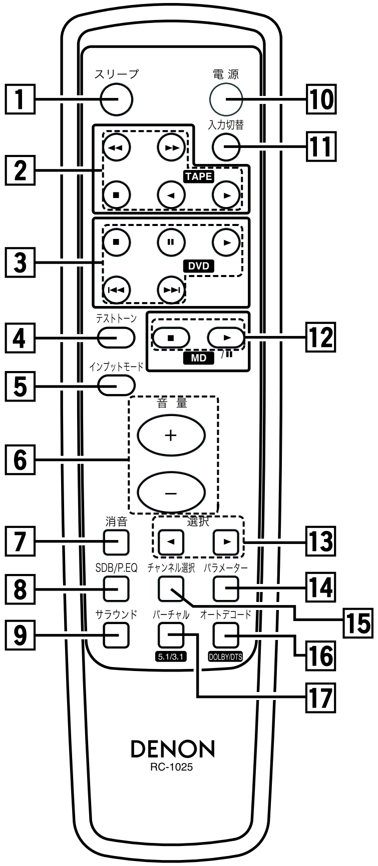



**ご注意**

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。
- 本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

## リモコンボタンの名前とはたらき

各ボタンのはたらきなど、詳しい説明については（ ）内のページを参照して下さい。




**1 スリープボタン**
スリープタイマーを設定するときに押します。……(39)

**2 カセットデッキの操作ボタン**
DENON製カセットデッキの操作ができます。
- 正方向プレイボタン（▶）
  カセットデッキの正方向の再生または録音をはじめるときに押します。
- 逆方向プレイボタン（◀）
  カセットデッキの正方向の再生または録音をはじめるときに押します。
- ストップボタン（■）
  再生または録音を停止するときに押します。
- 早送りボタン（▶▶）
  カセットテープを早送りするときに押します。
  再生中に押すと、次の曲の頭出しができます。
- 巻き戻しボタン（◀◀）
  カセットテープを巻き戻すときに押します。
  再生中に押すと、現在の曲の頭出しができます。

**3 DVD操作ボタン**
DENON製DVDプレーヤーの操作ができます。
- プレイボタン（▶）
  DVDの再生を始めるときに押します。
- ポーズボタン（❚❚）
  DVDを一時停止するときに押します。
- ストップボタン（■）
  再生を停止するときに押します。
- オートマチックサーチボタン（|◀◀/▶▶|）
  曲の頭出しをおこなうときに押します。

**4 テストトーンボタン**
各チャンネルの再生レベルを調整するテストトーンをON/OFFします。
……(22)

**5 インプットモードボタン**
入力信号のモードを切り替えます。
……(24)

**6 音量＋，－ボタン**
主音量を調節します。……(19)

**7 消音ボタン**
一時的に音を消します。もう一度押すと音が出ます。……(32)

**8 SDB/P.EQ（SDB/プリセットイコライザー）ボタン**
SDBやプリセットイコライザーで音質を切り替えます。……(32)

**9 サラウンドボタン**
サラウンドモードを切り替えます。
……(24)

**10 電源ボタン**
電源を『ON/STANDBY』にします。
……(19)

**11 入力切替えボタン**
選ばれた入力ソースに切り替えます。
……(24)

**12 MD操作ボタン**
DENON製MDレコーダーの操作ができます。
- プレイボタン（▶）
  MDの再生を始めるときに押します。（DMD-M33とシステム接続時はプレイ/ポーズ（▶/❚❚）ボタンとして動作します。）
- ストップボタン（■）
  再生または録音を停止するときに押します。

**13 選択（セレクト◀,▶）ボタン**
サラウンドパラメータの選択やテストトーンやチャンネルレベル設定のレベル調節などに使用します。
……(17, 22, 23, 25 ～ 33)

**14 パラメーター（サラウンドパラメーター）ボタン**
再生中のサラウンドモードに関係する各種パラメータを切り替えます。
……(26, 27)

**15 チャンネル選択ボタン**
再生レベルやディレイタイムを調節するチャンネルを選択します。
……(23, 33)

**16 オートデコードボタン**
サラウンドモードをオートデコードモードにします。入力された信号により自動的にドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドモードに切り替わります。
……(26)

**17 バーチャルボタン**
サラウンドモードをドルビーバーチャルスピーカーモードにします。このモード中に押すと、再生チャンネルを2.1ch、3.1ch、と5.1chに切り替えます。
……(29)

# 基本操作

## 簡単に DVD ホームシアターを楽しむ

**ご注意**

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続の際、本機に付属の接続コード A、B を使用します。コードの色と AV サラウンドアンプ（AVC-M380）のスピーカー端子の色を合わせて接続してください。
- AV サラウンドアンプ背面のスピーカー端子は、付属のスピーカーの接続専用に設計されています。これらの端子には、絶対に指定以外の機器を接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、AV サラウンドアンプの故障や火災などの原因にもなります。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスの近くに接続コードを設置しますと、ハムや雑音の原因となることがあります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

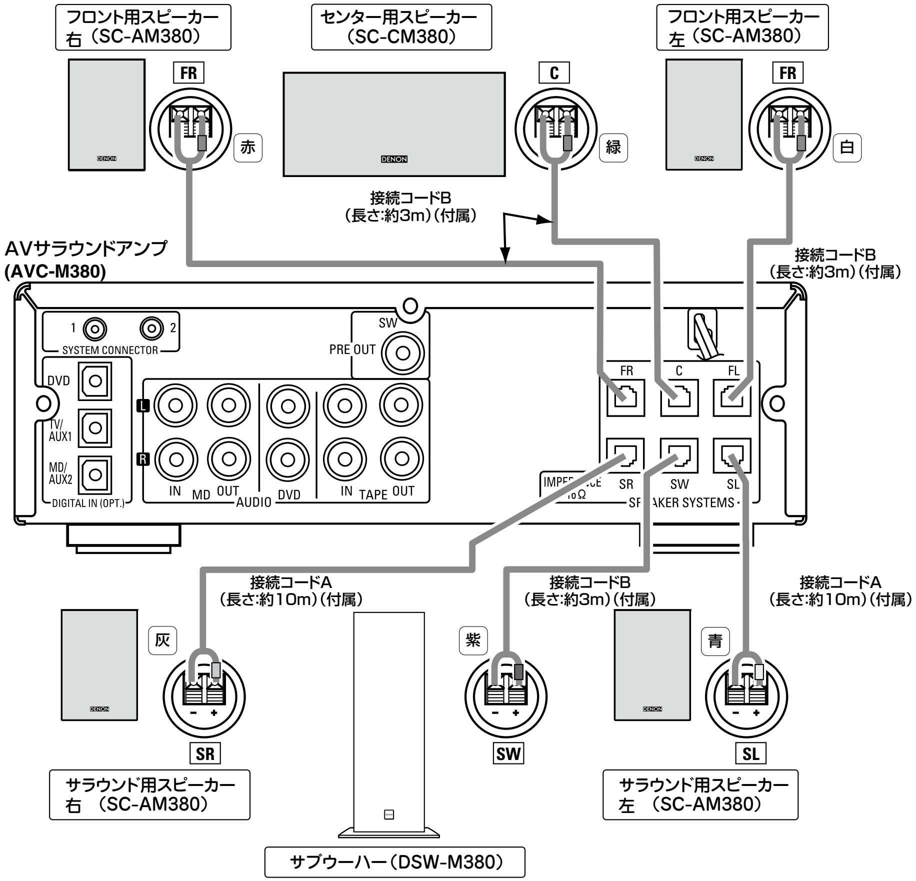
**保護回路について**

AV サラウンドアンプ（AVC-M380）には保護回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤ってショートされた際に大電流が流れたり、非常に大きな出力があった場合に、スピーカーを保護するためにスピーカー出力を遮断します。
また、内部温度が異常に上昇した場合に保護回路が動作し本体を保護します。（温度上昇による保護回路動作時は、ディスプレイのボリューム表示が点滅しスピーカー出力が制限されます。さらに内部温度が上昇した場合、電源がスタンバイになり電源表示インジケーターが赤色に点滅します。）このような場合は、必ず AV サラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜き、接続コードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、AV サラウンドアンプが冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線や AV サラウンドアンプの周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、AV サラウンドアンプが故障していることも考えられますので、AV サラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社のお客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

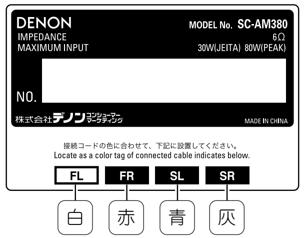
## スピーカーシステムの接続

本機に付属の接続コード A、B を使用します。コードの色と、AV サラウンドアンプのスピーカー端子の色を合わせて接続してください。

**※ 付属の接続コードの色ラベル付の方をプラス（＋）側に接続してください。**




**【スピーカーラベルの説明】**




※ スピーカーを設置する位置に応じて、その色の接続コードを使用して、AV サラウンドアンプと接続します。

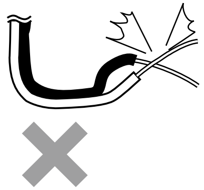
**スピーカー設置時のご注意**

テレビまたはモニター受像機に近付けるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

## ■ スピーカー端子への接続方法

**ご注意**

- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。
- **付属の接続コードの表示色の方をプラス（＋）側に接続してください。**
- 回路の故障を防ぐため、接続コードの芯線のプラスとマイナスまたは L/R を絶対にショートさせないでください。

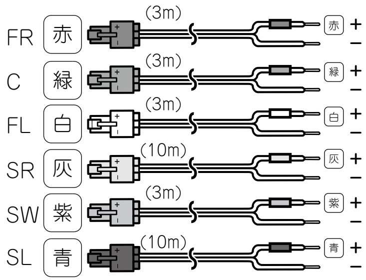


本機に付属の接続コード A、B を使用します。接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AV サラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。

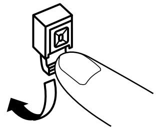
**※ 付属の接続コードの色ラベル付の方をプラス（＋）側に接続してください。**

- 接続コード A（10m）、B（3m）は、次のように接続してください。

**AVC-M380のスピーカー端子へ　各スピーカーのスピーカー端子へ**

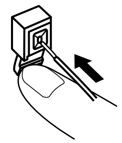



① 端子レバーを押し下げます。

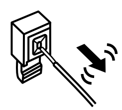


② コードの芯線を穴の中に差し込みます。

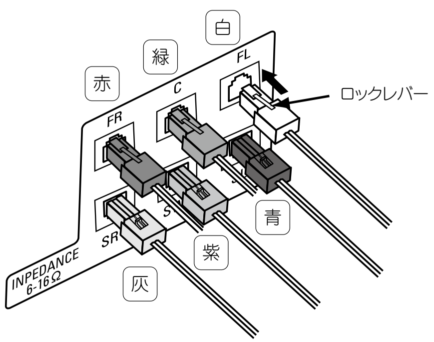
③ レバーを離します。



④ 接続コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



- 接続コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。



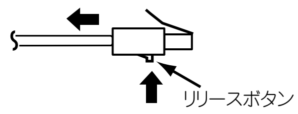

① スピーカー端子の色に合わせて接続します。
② プラグは「カチッ」と音がするまで、しっかり奥まで差し込んでください。
　赤、緑、白：ロックレバーを上にして差し込む。
　灰、紫、青：ロックレバーを下にして差し込む。
③ プラグを外すときは、ロックレバーを押しながら抜きます。



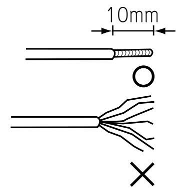
## ■スピーカー接続コードの交換方法

付属の接続コードを延長したい場合など、スピーカー接続コードを交換することができます。

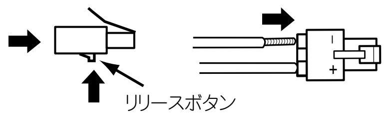
① ロックレバーと反対側のリリースボタンを押しながら、コードをプラグから抜きます。



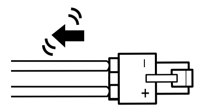

② 交換するコードの先端の被覆をはがして、先端がばらけないようにしっかりよじります。




③ リリースボタンを押しながら、コードの極性＋と－をプラグの＋と－に合わせて芯線を差し込みます。




④ リリースボタンを離し、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



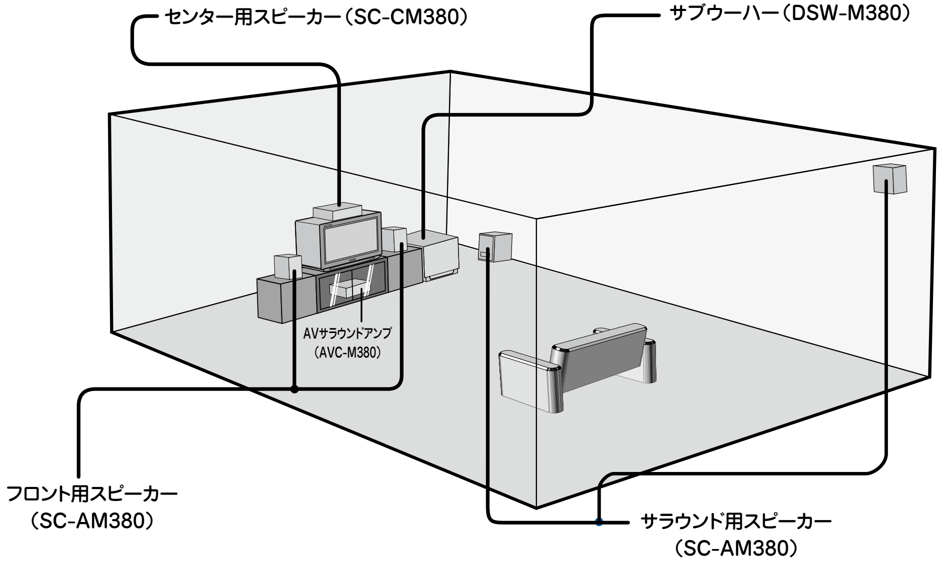
**スピーカー接続コード交換時のご注意**

- かならず AV サラウンドアンプの電源を切ってからおこなってください。
- **（＋）と（－）の芯線がショートしていないこと確認してから、極性をまちがえないように正しく接続して下さい。**
- 本機のスピーカープラグに接続できるスピーカー接続コードの太さは 1.2mm 程度までです。
- リリースボタン側を机など平らな面に押し付けてコードの抜き差しをすると簡単です。
- コードの芯線がプラグからはみ出したり、ショートしていないことを確認してから使用してください。

## ■スピーカー設置のしかた

スピーカーシステムのレイアウト（基本的なシステムレイアウト）

※ スピーカーシステム（6 台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。




## クイックセットアップのしかた

本機は工場出荷時に、あらかじめ一般的な内容にシステム設定がされており、システム変更をおこなう必要がなければ、そのままの状態で使用できます。
次のような場合はクイックセットアップをおこない、システム設定をしてからご使用ください。

### ■ルーム設定

6 畳以上の広いスペースにスピーカーを設置する場合、下記ルーム設定で部屋の大きさを選択して下さい。

　：工場出荷時の設定
＜　＞：ディスプレイ表示内容

| 設定項目 | | 設定内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ルーム設定 ＜ ROOM SETUP ＞ | | ＜ 6 （2.7x3.6）＞ | ＜ 8 （3.6x3.6）＞ | ＜ 12（3.6x5.4）＞ | ＜ 15（4.5x5.4）＞ | ＜ 20（4.5x7.4）＞ |
| | （部屋の大きさの目安） | 6 畳相当 | 8 畳相当 | 12 畳相当 | 15 畳相当 | 20 畳相当 |



## ■ファンクション設定

MD、TAPE、TV/AUX1、MD/AUX2 ファンクションのデジタル入力、アナログ入出力設定を行います。
１つのファンクションにデジタル入力とアナログ入出力の割り当てを行えば、本機とデジタル信号接続してサラウンド再生をしながら、MD などの録音機器にステレオアナログ録音を同時に行うことができます。
（他の機器との接続のしかたは、19 ～ 22 ページを参照してください。）

　：工場出荷時の設定
＜　＞：ディスプレイ表示内容

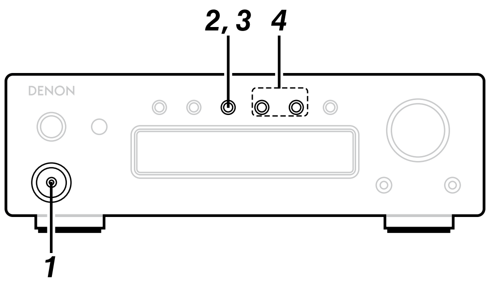
| 設定項目 | 設定項目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ＜ TAPE ＞を選択したとき | | ＜ TV/AUX1 ＞を選択したとき | |
| ファンクション設定 1 ＜ FUNC.SETUP 1 ＞ | 入力ソース | 割り当て | 入力ソース | 割り当て |
| | TAPE | アナログ入出力 | TAPE | x（無効） |
| | TV/AUX1 | デジタル入力 | TV/AUX1 | アナログ入出力 / デジタル入力 |
| | ＜ MD ＞を選択したとき | | ＜ MD/AUX2 ＞を選択したとき | |
| ファンクション設定 2 ＜ FUNC.SETUP 2 ＞ | 入力ソース | 割り当て | 入力ソース | 割り当て |
| | MD | アナログ入出力 | MD | アナログ入出力 / デジタル入力 |
| | MD/AUX2 | デジタル入力 | MD/AUX2 | x（無効） |

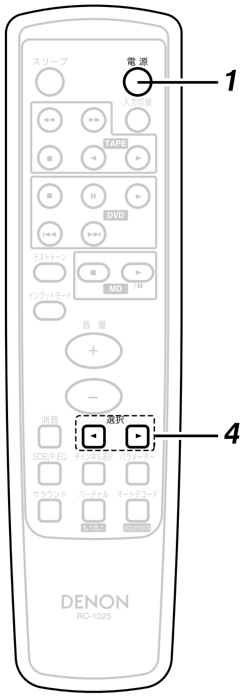
この設定により切替え可能なファンクションの数は次のようになります。

　：工場出荷時の設定

| ファンクション設定 1 | ファンクション設定 2 | |
|---|---|---|
| TAPE | MD | DVD ↔ MD ↔ TAPE ↔ PORTABLE ↔ TV/AUX1 ↔ MD/AUX2 ↔ DVD |
| TV/AUX1 | MD | DVD ↔ MD ↔ PORTABLE ↔ TV/AUX1 ↔ MD/AUX2 ↔ DVD |
| TAPE | MD/AUX2 | DVD ↔ MD ↔ TAPE ↔ PORTABLE ↔ TV/AUX1 ↔ DVD |
| TV/AUX1 | MD/AUX2 | DVD ↔ MD ↔ PORTABLE ↔ TV/AUX1 ↔ DVD |

■クイックセットアップのしかた




基本操作

**1** **電源を切ります。**
- スタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが赤色になります。

**2** **メニュー / セットボタンを 2 秒以上押します。**
- ディスプレイが点灯し、“QUICK SETUP” が表示されます。

**3** **メニュー / セットボタンを押すごとに設定したい項目を表示します。**
- 押すごとに次のように変わります。

ROOM SETUP → FUNC.SETUP1
（終了） ← FUNC.SETUP2

- 設定する項目で 1 秒経つと、現在の設定値が表示されます。

**4** **セレクト ◀、▶ ボタンで設定したい内容を選択します。**
- 変更しない場合は、そのままメニュー / セットボタンで送ります。

**5** **メニュー / セットボタンを押して一巡すると終了し、スタンバイ状態にもどります。**

基本操作

## DVD プレーヤーと TV を接続する

接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
接続コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
MD レコーダーやカセットデッキへのアナログ録音のため音声ピンプラグコードも接続してください。

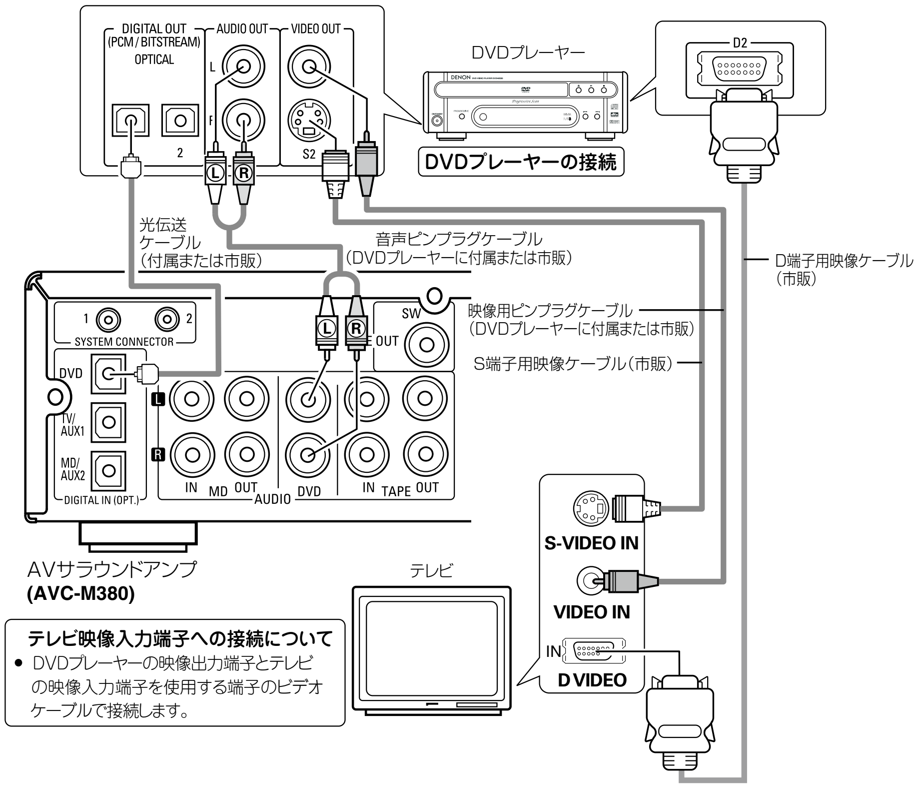
※ ドルビーデジタル、DTS などマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。MD レコーダーやカセットデッキへのアナログステレオ録音のため音声ピンプラグコードも接続してください。

**アナログ音声入力端子への接続について**

- プレーヤーの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のDVD音声入力（IN）端子を付属または市販の音声ピンプラグケーブルで接続します。

**デジタル入力端子への接続について**

- DIGITAL OUTPUT端子が付いている機器を接続します。
- 光伝送（OPTICAL）の接続は、付属品または市販の光伝送ケーブル（角形）を使用して接続してください。




**テレビ映像入力端子への接続について**

- DVDプレーヤーの映像出力端子とテレビの映像入力端子を使用する端子のビデオケーブルで接続します。

### ご注意

- 本機には、映像信号入出力端子と切り替え機能がありません。テレビの切り替えをご使用ください。
- DVD プレーヤーとテレビの映像接続の方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- DVD プレーヤーで DTS ダウンミックス機能を搭載していない機器では、DTS ソースのアナログステレオ音声が出力されません。他の録音機器へのアナログ録音はできません。詳細は DVD プレーヤーの取扱説明書を参照ください。
- 付属の光伝送ケーブル挿入時には先端のキャップを外してください。

**最適なサラウンド再生を楽しむために**

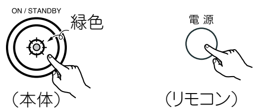
工場出荷時（初期値）の設定でサラウンド再生を楽しむことができますが、より最適なサラウンド再生をおこなうためには、テストトーンによる各チャンネルレベルの調整やスピーカーの距離設定（ディレイタイム）などを設定することをおすすめします。
詳細は（22、23 ページ）を参照して設定をおこなってください。

## DVD ソフトをサラウンド再生する

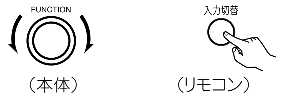
- 14 ～ 18 ページを参照して、接続に間違いがないことを確認します。

**1 電源を入れます。**

- ディスプレイが点灯します。
- 電源を入れてから音声が出力されるまで、雑音を防止するミューティングが動作し、数秒かかります。



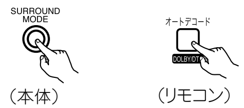

**2 入力ソース “DVD” を選択します。**




**3 サラウンドモードを “AUTO DECODE” にします。**
**下記の表示になります。**

| AUTO DECODE | ➡ | AUTO ST DVD |
|---|---|---|

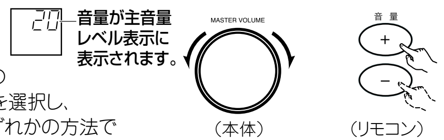
※ 信号が入力されていない場合




**4 DVDソフトの再生をします。ソフトの種類によって、下記の表示に変わります。**

| 例）DOLBY DIGITAL ソフト再生時 | 例）dts SURROUND ソフト再生時 | 例）COMPACT DISC DIGITAL AUDIO ソフト再生時 |
|---|---|---|
| DDIGITAL DVD | DTS DVD | AUTO ST DVD |
| ●ドルビーデジタルサラウンド再生します。 | ●DTSサラウンド再生します。 | ●オートステレオではステレオ再生します。 |

**5 音量を調節します。**

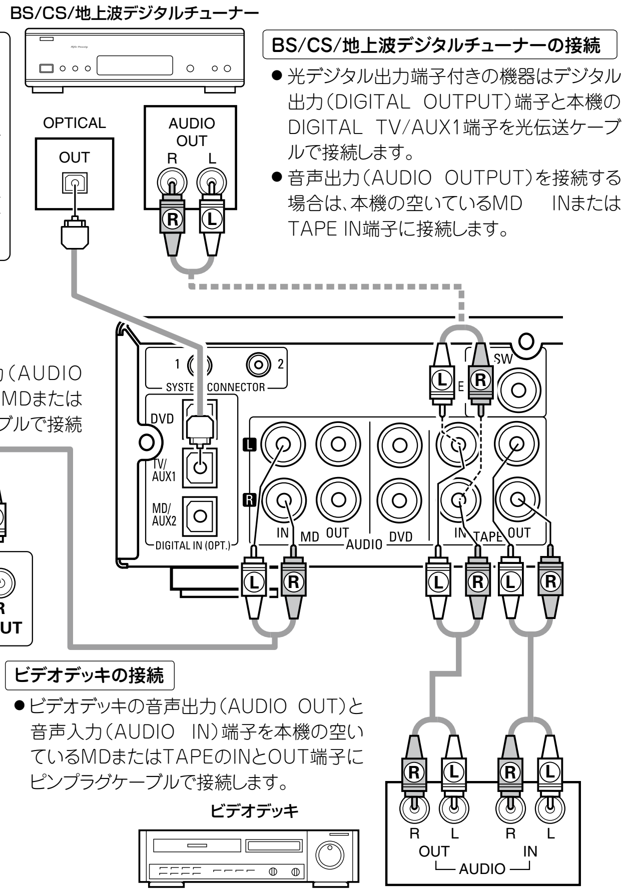



- 入力モード「AUTO」、サラウンドモード「AUTO DECODE」では、再生したディスクの信号によって、ドルビーデジタル/DTS/PCMを選択し、ドルビーデジタル/DTS/オートステレオのいずれかの方法で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- サラウンドモードやサラウンドパラメータなどの詳細は『サラウンド機能の操作のしかた』（22～35ページ）を参照ください。

# 接続のしかた

## BS、地上波デジタルチューナーや VTR 音声の接続のしかた

映像信号は直接テレビに接続して、テレビで切り替えてください。
接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。




**光デジタル入力端子への接続について**

- 光デジタル入力端子に入力されるのは音声信号のみです。
- 光伝送（OPTICAL）の接続には付属または市販の光伝送ケーブルを使用してください。

**BS/CS/地上波デジタルチューナーの接続**

- 光デジタル出力端子付きの機器はデジタル出力（DIGITAL OUTPUT）端子と本機のDIGITAL TV/AUX1端子を光伝送ケーブルで接続します。
- 音声出力（AUDIO OUTPUT）を接続する場合は、本機の空いているMD INまたはTAPE IN端子に接続します。

**テレビなどの接続**

- テレビなどのアナログ音声出力（AUDIO OUTPUT）を本機の空いているMDまたはTAPE IN端子にピンプラグケーブルで接続します。
- 本機でテレビ音声を再生する場合はテレビの音量を0（最小）にします。

**ビデオデッキの接続**

- ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）と音声入力（AUDIO IN）端子を本機の空いているMDまたはTAPEのINとOUT端子にピンプラグケーブルで接続します。

ご注意

- 本機の MD（OUT）端子は DVD または TAPE（IN）端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。デジタル音声入力端子に接続された機器からの音声信号は出力されません。
- 同様に本機の TAPE（OUT）端子は DVD または MD（IN）端子に接続されたアナログ音声のみ出力されます。
- デジタルチューナーのように光デジタル出力を TV/AUX1 に、アナログ音声出力を TAPE(IN) 端子に接続して使用する場合は、クイックセットアップのファンクション設定を TV/AUX1 に設定してください。（設定は 16 ページ参照）デジタル入力 TV/AUX1 とアナログ音声入力 TAPE(IN) が TV/AUX1 ファンクションとして同時に選択され、本機でデジタル入力のサラウンド再生をしながら、MD などの録音機器にステレオアナログ録音することができます。
- MD や TAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源を ON にしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。
- 付属の光伝送ケーブル挿入時には先端のキャップを外してください。

接続のしかた

## D-M33 シリーズ機器とのシステム接続のしかた

本機は D-M33 シリーズの MD レコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続して使用することができます。
別売りの MD レコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）の操作のしかたは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
本機と直接システム接続できる機器は MD レコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）です。

ご注意

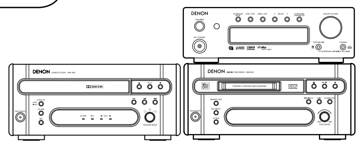
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L（白）、R と R（赤）を接続してください。
- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な差し込みは雑音発生の原因になります。
- 接続コード類と電源コードを一緒に束ねたり、他の電気製品の近くに接続コード類を近づけたりすると雑音の原因のなることがあります。
- ファンクション切り替えボタン（FUNCTION）で選択されたファンクションの入力端子に、機器を接続していない場合、他の入力端子に接続された機器の再生音が漏れることがあります。

### システム接続について

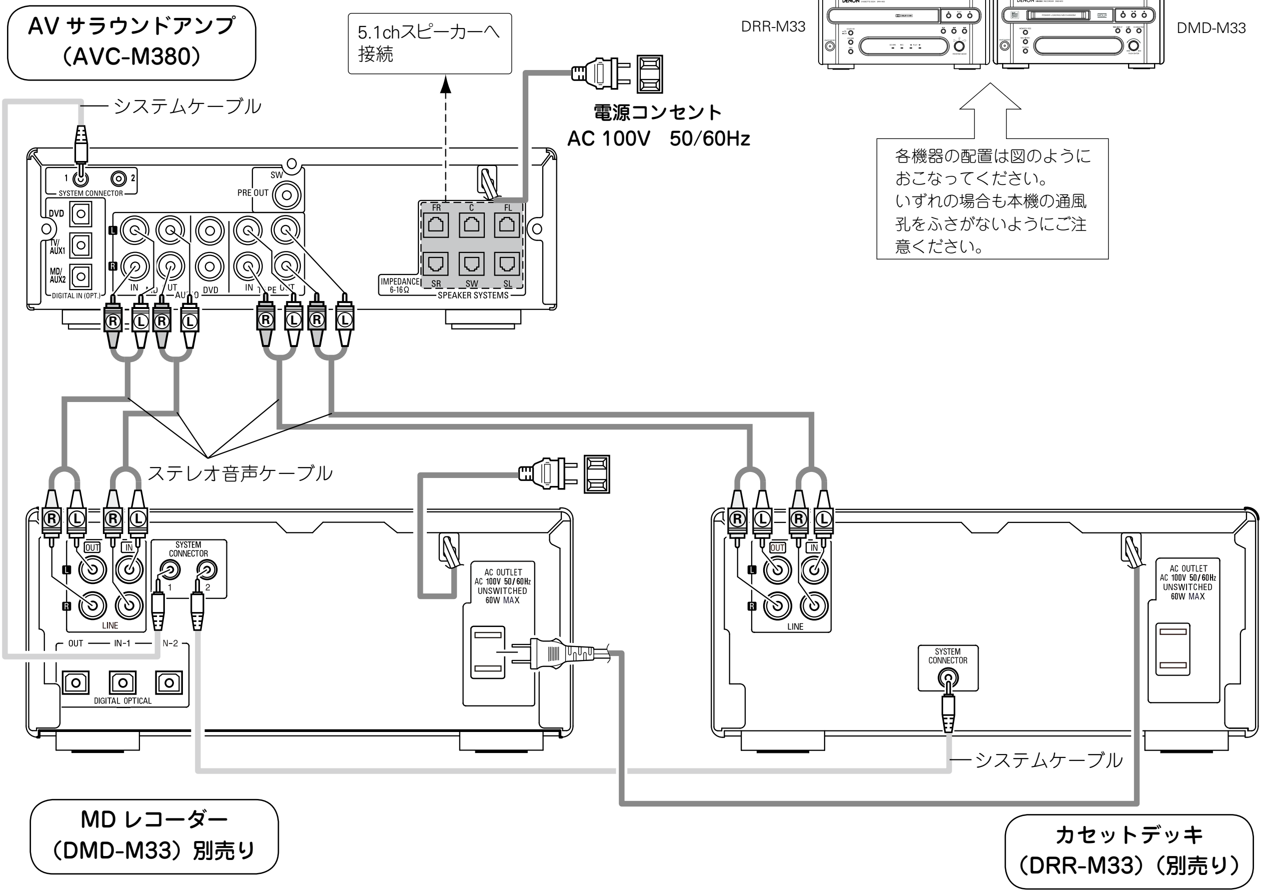
- 本機とシステム接続してシステム動作をおこなえる MD レコーダーおよびカセットデッキはそれぞれ 1 台です。MD レコーダーやカセットデッキを 2 台システム接続すると、正常なシステム動作がおこなわれません。
- 各機器間のすべてのステレオ音声コードとシステムコードを接続しないと、オートファンクション機能などのシステム動作がおこなわれません。各機器間のすべての接続コードは確実に接続してください。
- 動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で接続の変更をおこなってください。
- システムコードは他機器のあいている端子 1 または 2 に差し込んでください。
- MD レコーダーの光デジタル出力を本機の MD/AUX2 端子に接続して使用する場合はクイックセットアップのファンクション２設定を“MD/AUX2”に設定してください。（16 ページ参照）

## スピーカーシステムの接続

『スピーカーシステムの接続』（14 ページ）により正しく接続してください。



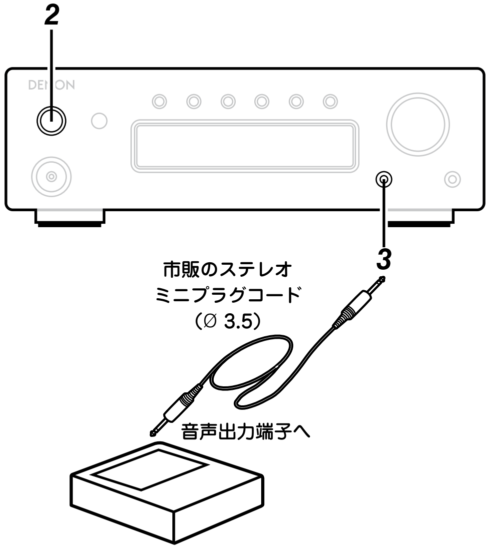

各機器の配置は図のようにおこなってください。
いずれの場合も本機の通風孔をふさがないようにご注意ください。



# 操作のしかた

## ポータブル機器と接続して使う

お手持ちのポータブル機器の音声出力端子を本機のポータブル入力端子につなぐと、簡単に高音質で音楽を楽しむことができます。
接続する前に各機器の電源を切ってください。
各プラグは確実に差し込んでください。




**1** **ポータブル機器の音声出力端子と本機の PORTABLE IN 端子を接続します。**

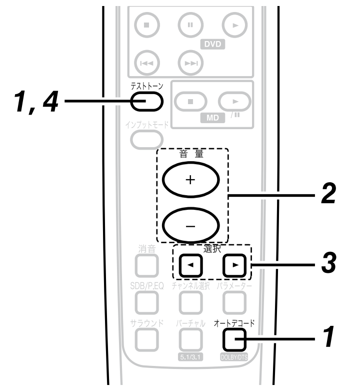
**2** **ファンクションつまみを回すか、入力切替ボタンを押して PORTABLE に切り替えます。**
- 音が歪む場合には、音源からの出力レベル（ボリューム）を下げて、本機のボリュームをあげると改善されることがあります。
- ノイズが多い場合には、ポータブル機器の出力レベル（ボリューム）を上げて、本機のボリュームを下げると改善されることがあります。

- 接続前に各機器の電源を切ってください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねますと、ハムや雑音の原因になることがあります。
- PORTABLE IN 端子は、ポータブルオーディオプレーヤーの出力レベルに合わせた感度設定になっています。そのためこの端子に据置型プレーヤーの音声出力を接続すると、突然に大きな音が出て聴力障害などの原因になることがあります。
- 据置型プレーヤーなど出力レベルの高い機器は本機背面の外部機器入力端子をご利用ください。
- PORTABLE IN 端子の最大許容入力は 1Vrms です。

## サラウンド機能の操作のしかた

### サラウンド再生の前に

**1 テストトーンによる再生レベルの確認と調節**
再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの確認と調節をおこなってください。
テストトーンで調節したチャンネルレベルはすべてのサラウンドモードに適用されます。




**1** **オートデコードボタンを押してオートデコードモードにしてからテストトーンボタンを押します。**

**2** **テストトーンが各スピーカーから出力されますので、本体の MASTER VOLUME つまみを回すか、またはリモコンの音量ボタンを押して調節しやすい音量にします。**

AUTO-FL DVD 40 — 音量がディスプレイに表示されます。

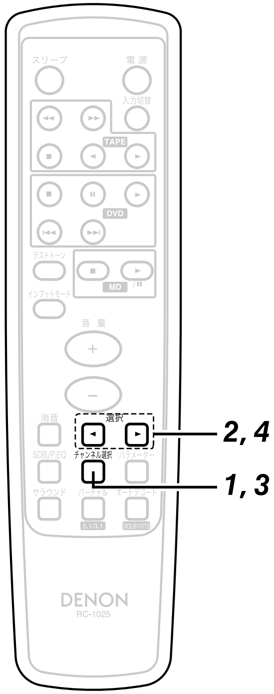
**3** **各スピーカーから出力される音量が同じになるように選択 ◀,▶ ボタンで調節します。**
- 各チャンネルレベルは± 12dB まで調節できます。

**4** **調節が終わったら、もう一度テストトーンボタンを押して、終了します。**

操作のしかた

### 2 再生中のチャンネルレベルの調節

テストトーンによる調節後も、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなうことができます。
調節したレベルは各サラウンドモードごとに自動的に記憶されます。




**1 リモコンのチャンネル選択ボタンを押します。**

● 下記が表示されます。

LEVEL</>DELAY

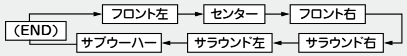
**2 上記表示中に選択 ◀ ボタンで LEVEL を選択します。**

● 下記のレベル表示となります。

FL VOL< 0dB>

**3 再生中に、レベル調節したいスピーカーを選択します。**

※ チャンネル選択ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

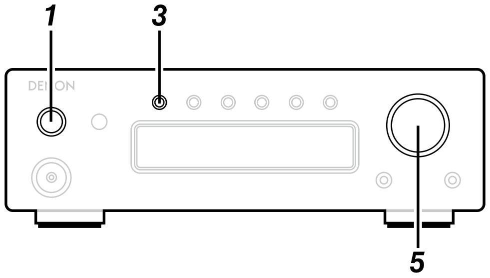


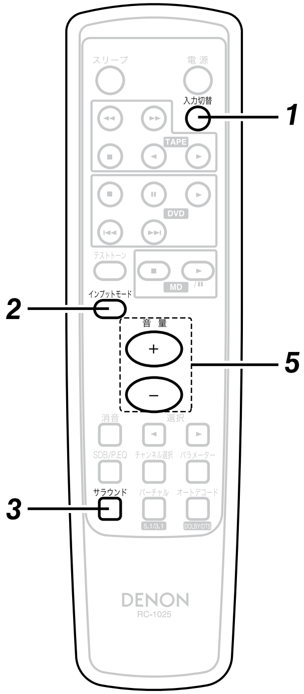

**4 チャンネルレベル表示中に選択したスピーカーの音量レベルを調節します。**

● 各チャンネルレベルは± 12dB まで調節できます。

※ チャンネルレベルの設定が終了したら操作 ***3*** で END（終了)を選択します。数秒経つと表示が通常状態に戻ります。

## 入力モードの設定




**1** **ファンクションつまみを回して（リモコンは入力切替ボタンを押して）再生したい入力ファンクションを選択します。**

- ファンクションが次のように切り替わります。リモコンで操作した場合は、→方向のみ切り替わります。

→DVD ↔ MD ↔ TAPE ↔ PORTABLE ↔ TV/AUX1 ↔ MD/AUX2 ←

**2** **入力ファンクションに DVD、TV/AUX1 または MD/AUX2 を選んだときは、リモコンのインプットモードボタンを押して入力モードを選択します。**

※ 通常は「AUTO」モードで使用します。

→AUTO → PCM → DTS → ANALOG ─┘

※ 入力ファンクションに TV/AUX1、MD/AUX2 を選んだ場合は、『ANALOG』は選択できません。
※ クイックセットアップの『ファンクション設定 2』(FUNC SETUP2) で MD/AUX2 を選択した場合、MD ファンクションの入力モード選択をおこなうことができます。

**【入力モード選択機能について】**

- DVD、TV/AUX1、MD/AUX2 の入力ファンクションについて選択することができます。
- 入力モードは、各入力ファンクションごとに選択ができます。また、選択された入力モードは入力ファンクションごとに記憶されます。
- 上記以外の入力ファンクションでは “ANALOG ONLY” と表示され、選択できません。

**AUTO（オートモード）**

- 選択された入力ファンクションごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。
- デジタル信号の有無を検出して、入力されている信号を判断し、DTS/ ドルビーデジタル /AAC /PCM いずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- デジタル信号が入力されていない DVD の場合は、アナログ入力端子を選択します。

**PCM（PCM 信号再生専用モード）**

- PCM 信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

**DTS（DTS 信号再生専用モード）**

- DTS 信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

**ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）**

- アナログ入力端子に入力されている信号の再生をおこないます。（TV/AUX1、MD/AUX2 では選択できません。）

※ クイックセットアップの『ファンクション設定 1』(FUNC. SETUP1) で TV/AUX1 を選択した場合は『ANALOG』も選択できます。

**3** **本体のサラウンドモードボタンまたはリモコンのサラウンドボタンを押してサラウンドモードを選択します。**

- 下記のように切り替わります。

入力信号:PCM、アナログの場合

→ AUTO DECODE → 5CH STEREO → HALL → CINEMA → CONCERT → GAME → DOLBY VS → STEREO → DIRECT ─┘

入力信号:デジタル（Dolby Digital、DTS、AAC）の場合

→ AUTO DECODE → DOLBY VS → STEREO → DIRECT ─┘

**4** **選択した機器の再生をはじめます。**

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

**5** **本体の MASTER VOLUME つまみを回すか、またはリモコンの音量ボタンを押して音量を調節します。**

DIGITAL DVD 40 ― 音量がディスプレイに表示されます。

※ 音量は 0(最小)～ 60(最大)の範囲で調節できます。但し、入力信号、サラウンドモード、スピーカー設定およびチャンネルレベルの設定によっては、音量が 60 まで調整できないことがあります。

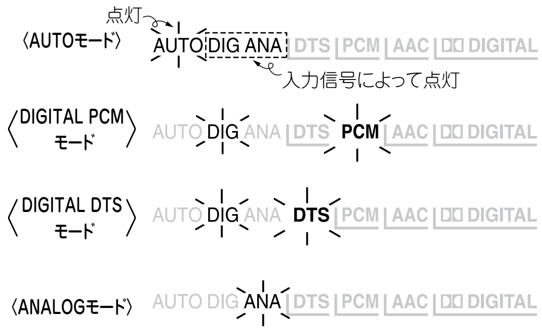
### DTS ソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS 対応の CD を『PCM』モードで再生すると、DTS 再生できないためノイズが出力されます。
  DTS 対応のソースを再生する場合は、必ず入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- 『AUTO』モードで DTS を再生した場合、再生の始め、およびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

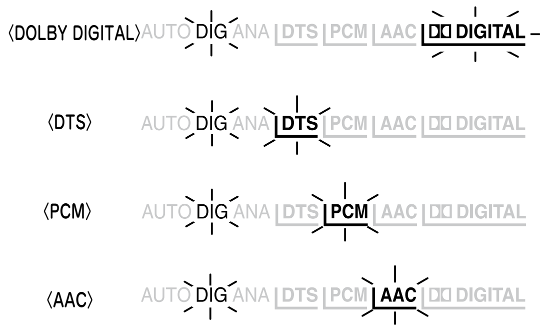
### CD ソースの再生をおこなう場合の入力モード

『AUTO』モードでライブ録音などの CD を再生した場合、再生の始めの音声が若干途切れる場合があります。このような場合は、『PCM』モードで再生してください。

### ◎ 入力モードの表示




### ◎ 入力信号の表示

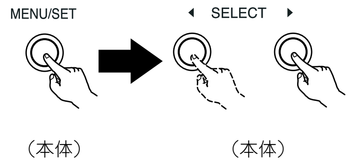



※ デジタル信号が正常に入力されると “DIG” が点灯します。点滅している場合は接続が正しいか、または入力機器の電源が入っているかを確認してください。



## ■ 再生しているプログラムソース、各種設定などを確認するには

◎ 本体のメニュー / セットボタンを押して “STATUS” を表示させてからセレクト ◀,▶ ボタンで表示します。




◎ セレクト ◀,▶ ボタン押すたびに、ディスプレイに現在のプログラムソースやサラウンドの各種設定が確認できます。

◎ ボタン操作を止めて数秒経つと表示が通常状態に戻ります。

## オートデコードモードでの再生のしかた

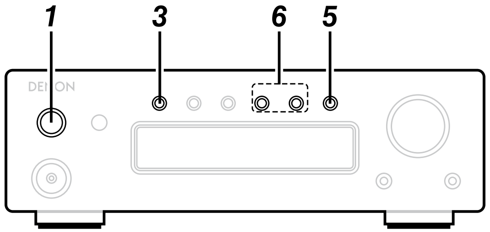
オートデコードモードでは入力された信号フォーマットに応じてドルビーデジタル、DTS、AAC のマルチチャンネルソースに対して自動的にデコードし、マルチチャンネル再生ができます。
2 チャンネルソースに対しても 2 チャンネルモード設定によりオートステレオ、ドルビープロロジック II で再生できます。

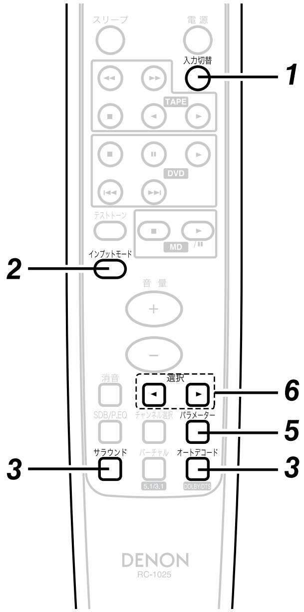
- オートステレオ：
  ステレオ 2 チャンネル再生をします。
- ドルビープロロジック II：
  シネマ、ミュージック、ゲームモードでマルチチャンネル再生します。

**[1] ドルビーデジタル、DTS、AAC サラウンドの再生（デジタル入力のみ）**

**◎ 適応ソース**

- デジタル入力
  （DVD、TV/AUX1、MD/AUX2 ファンクション）
  ドルビーデジタルマルチチャンネルソース
  DTS ソース、AAC マルチチャンネルソース




### 1 デジタル入力ファンクションを選択します。（DVD または TV/AUX1、MD/AUX2 のデジタル入力）

### 2 入力モードを『AUTO』に設定します。

※ DTS ソースは入力モード『DTS』でも再生できます。

### 3 サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。

- リモコンはオートデコードボタンで選択できます。

### 4 DOLBY DIGITAL，dts マークが付いたプログラムソースまたは AAC のプログラムソースを再生します。

- ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示が点灯します。

  DIGITAL ← 点灯

- DTS ソース再生中は、DTS 表示が点灯します。

  DTS ← 点灯

- AAC ソース再生中は、AAC 表示が点灯します。

  AAC ← 点灯

※ 再生ソースのフォーマットに応じて自動的に切り替わります。

### 5 サラウンドパラメータボタンを押すとソースに合わせてサラウンドパラメーターを表示します。

※ 調節できるパラメータが無い場合は表示されません。

### 6 各種サラウンドパラメーターを表示中にセレクト ◀,▶ ボタンまたは選択 ◀,▶ ボタンで設定します。

※ パラメーター表示中に 4 秒間操作しないと、定常表示に戻ります。

**◎ 二重音声の情報がある AAC またはドルビーデジタルソースを再生する場合**
音声出力内容を設定することができます。

- 二重音声出力モードが表示されます。

<　MAIN　>

MAIN/SUB　MAIN　SUB
←　→

※ 二重音声ソースの時のみ表示され調節できます。
MAIN：　主音声が出力されます。
SUB：　副音声が出力されます。
MAIN/SUB：左チャンネルから主音声、右チャンネルから副音声が出力されます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

2 2 チャンネルモードの設定（オートデコードモードでの2 チャンネルソースの再生）

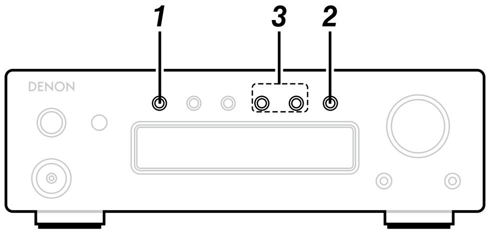
入力信号が 2ch の場合には、2 チャンネルモードの設定により 2 つのデコードモード（ドルビープロロジックⅡ、オートステレオ）から選択して設定できます。

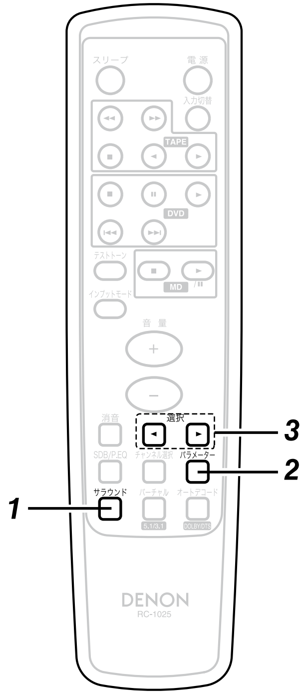
ドルビープロロジックⅡ：
2ch ソースをドルビープロロジックⅡ処理によりマルチチャンネル再生します。（アナログ入力の工場出荷設定：ドルビープロロジックⅡシネマ）

オートステレオ：
2ch ソースを 2ch ステレオ再生します。（デジタル入力の工場出荷設定）

◎ 適応ソース

- デジタル入力
  （DVD、TV/AUX1、MD/AUX2 ファンクション）
  ドルビーデジタル 2ch ソース、AAC 2ch ソース
  PCM ソース（96kHzPCM ソース以外）
- アナログ入力
  （DVD、MD、TAPE ファンクション）
  アナログ 2ch ソース




**ご注意**

DVD、MD、TAPE ファンクションのアナログ入力を再生しているときは、2ch モード「オートステレオ」は選択できません。ステレオ再生をおこなう場合は、サラウンドモードで「STEREO」を選択してください。



**1** **サラウンドモードを『AUTO DECODE』にします。**
- “サラウンドモード”を表示した後、現在の 2 チャンネルモードを表示します。
- リモコンはオートデコードボタンで選択できます。

**2** **サラウンドパラメーターボタンを押して、2ch モードを選択します。**

`< AUTO ST >`

※ ドルビーデジタル、AAC の 5.1ch 信号や DTS 信号が入力されているときは、2ch モードの設定はできません。

**3** **セレクト ◀,▶ ボタンで希望する 2ch モードを選択します。**
- 押すごとに次のように切り替わります。

AUTO ST ↔ DDPLIIC ↔ DDPLIIM ↔ DDPLIIG ↔ AUTO ST

※ 2ch モードの設定内容の詳細は 28 ページ“サラウンドパラメーターについて①”を参照してください。
※ AUTO ST は DVD、TV/AUX1、MD/AUX2 のデジタル入力で選択できます。（アナログ入力では AUTO ST は表示されません。）

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

**サラウンドパラメーターについて①（オートデコード 2 チャンネルモード）**

**1. AUTO-ST（オートステレオモード）**

2ch ソースをステレオ 2ch で再生します。

オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVD や BS デジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CD などの 2ch ソースは自動的にステレオで再生します。

**2. DOLBY PLII CINEMA / PLII MUSIC / PLII GAME**

2ch ソースに対してもドルビープロロジック II 処理により、マルチチャンネルで再生します。

- **PLII CINEMA（ドルビープロロジック II シネマモード）**

  ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる 5 チャンネルデコードをおこない、2 チャンネルソースでも 360 度均一なサラウンド音場を実現します。

  主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSIC モードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

- **PLII MUSIC（ドルビープロロジック II ミュージックモード）**

  ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。

- **PLII GAME（ドルビープロロジック II ゲームモード）**

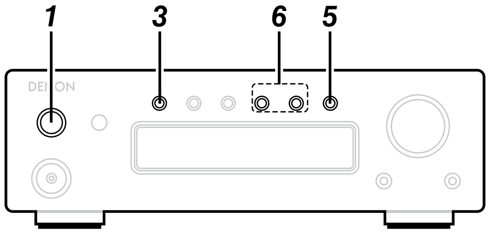
  従来の MUSIC/CINEMA モードに加えて、ゲームに最適な GAME モードに対応しています。

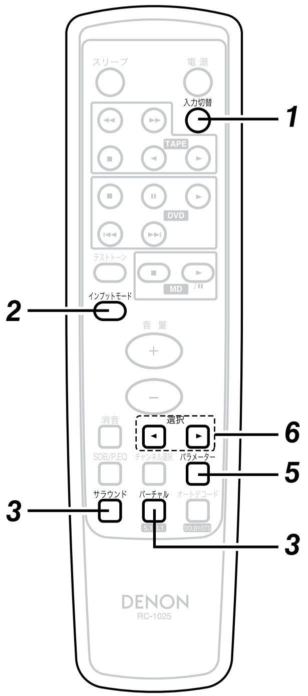
  GAME モードは、2 チャンネル音声に対してのみ使用できます。

- オートデコードモードで再生するとディスクや放送の内容によって再生モードが自動的に次のようになります。（入力モード『AUTO』、2 チャンネルモード『AUTO ST』の時）

<table>
<tr><th>メディア</th><th colspan="2">ソフトの内容</th><th>再生モード</th></tr>
<tr><td rowspan="3">DVD</td><td colspan="2">ドルビーデジタル　5.1ch/6.1ch</td><td>5.1ch 再生</td></tr>
<tr><td colspan="2">ドルビーデジタル　2ch<br>（含むドルビーサラウンド 2ch）</td><td>ステレオ再生（＊）</td></tr>
<tr><td colspan="2">DTS デジタル　5.1ch</td><td>5.1ch 再生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デジタル放送</td><td rowspan="2">AAC</td><td>5.1ch サラウンド</td><td>5.1ch 再生</td></tr>
<tr><td>2ch<br>（含むドルビーサラウンド 2ch）</td><td>ステレオ再生（＊）</td></tr>
<tr><td>CD</td><td colspan="2">PCM　ステレオ</td><td>ステレオ再生（＊）</td></tr>
</table>

（＊）2ch サラウンド（ドルビーサラウンド）やステレオのソフトを 5.1ch サラウンドで再生する場合は、2 チャンネルモードを『AUTO ST』以外に設定をしてください。




## ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた

ドルビーバーチャルスピーカーモードは、ドルビーラボラトリーズの立体音響技術です。
フロントとサブウーハーの 2.1ch でマルチチャンネルサラウンドの音場を再生できるモードです。
本機では 2.1ch 再生の 2 スピーカーモード以外に、センターチャンネルを加えた 3.1ch 再生の 3 スピーカーモードと 5.1ch で再生する 5 スピーカーモードが選択できます。（工場出荷設定：2 スピーカーモード）
2 スピーカー、3 スピーカーモードでは標準とワイドの 2 モードが選択できます。
ドルビーデジタル、DTS、AAC のマルチチャンネルソースだけでなく 2 チャンネルソースにも効果的です。2 チャンネルソースに対しては、ドルビープロロジック II シネマによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。

**[1] ドルビーデジタル、DTS、AAC のドルビーバーチャルスピーカー再生（デジタル入力のみ）**

適応ソース、操作のしかたは、26 ページ『オートデコードモードでの再生のしかた』の『[1] ドルビーデジタル、DTS、AAC サラウンド再生（デジタル入力のみ）』と同様です。

**操作 3 でサラウンドモードを『DD VS』に設定します。入力された信号フォーマットに応じてドルビーバーチャルスピーカー再生されます。**

●リモコンではバーチャルボタンで選択できます。

**ドルビーバーチャルスピーカー再生中にリモコンのバーチャルボタンを押すと、2 スピーカーモード、3 スピーカーモード、5 スピーカーモードの切り替えができます。**

**2/3 スピーカーモード：**
フロント 2ch スピーカーの音場について標準モードとワイドモードが選択できます。サラウンドスピーカーの設置がむずかしいときに便利です。

**5 スピーカーモード：**
5.1ch 再生＋フロント 2ch スピーカー音場を拡げるワイドモードで再生します。
フロントスピーカーの間隔が充分とれないときに便利です。

**標準とワイドモードの切り替えは、操作 5、6 のサラウンドパラメーターで選択します。**
**操作 6 のセレクト ◀,▶ ボタンで下記のように切り替わります。**

2SP Ref. ←→ 2SP Wide （2 スピーカーの例）

**[2] 2 チャンネルソースのドルビーバーチャルスピーカー再生**

2 チャンネルソースでも、ドルビープロロジック II シネマデコードによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。

● 上記 [1] と同様、2 スピーカー /3 スピーカーモード（標準とワイド）と 5 スピーカーモード（ワイド）再生ができます。

**サラウンドパラメーターについて ②**
**（ドルビーバーチャルスピーカーモード）**

1. **Ref.（標準モード）**
   標準的なモードです。5 スピーカーモードでは選択できません。
2. **Wide（ワイドモード）**
   フロントチャンネルの音場を拡大します。

操作のしかた

## DSP サラウンドモードについて

**各サラウンドモードとその特長**

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能な DSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。なお、各サラウンドモードはアナログソースとPCM（96kHz ソースを除く）ソースでお楽しみいただけます。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 5CH STEREO（チャンネル ステレオ） | サラウンド信号の Lch にはフロント Lch の信号、サラウンド信号の Rch にはフロント Rch の信号を出力し、センター ch には Lch と Rch の同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。 |
| 2 | HALL（ホール） | 反射音が回り込んでくるコンサートホールの雰囲気で楽しむためのモードです。 |
| 3 | CINEMA（シネマ） | モノラル録画の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しむためのモードです。 |
| 4 | CONCERT（コンサート） | 天井が低いライブハウスのような場所でアーティストがすぐ近くで演奏しているような雰囲気で楽しむためのモードです。 |
| 5 | GAME（ゲーム） | ビデオゲームソースで楽しむためのモードです。 |

※ 再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。

**パーソナルメモリープラスについて**

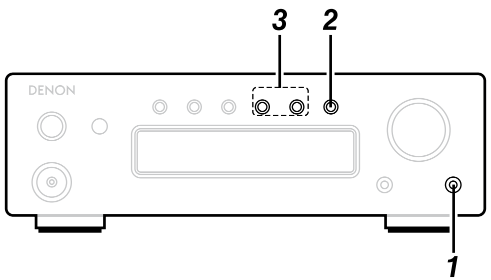
本機には、入力ファンクションごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

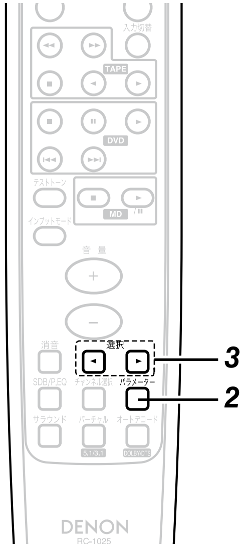
◎ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容
① サラウンドモード
② 入力モード選択機能

※ サラウンドパラメーターおよび SDB/プリセットイコライザーの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

## ドルビーヘッドホンでの再生のしかた

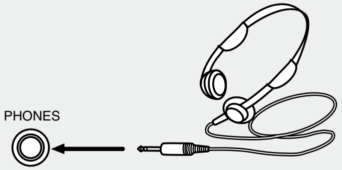
本機はドルビーラボラトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発によるヘッドホン再生における立体音響技術であるドルビーヘッドホンモードを搭載しています。
本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。（ステレオ、ダイレクトも選べます。）
ドルビーヘッドホンモードは、音場効果により DH1、DH2、DH3 のモードと通常のステレオ再生をする BYPASS の 4 モードが選択できます。
ドルビーデジタル、DTS、AAC、のマルチチャンネルソースに対応しており、2 チャンネルソースに対しても 2 チャンネルモード設定により、シネマとミュージックモードでのドルビーヘッドホン再生が選択できます。




**1** **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

- ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカー出力が OFF となり、スピーカーより音は出ません。




**2** **サラウンドパラメーターボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させます。**

**3** **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

※ パラメーター表示中に 4 秒間操作しないと定常表示に戻ります。

- DOLBY H モードの設定

< DDH DH1 >

DH1 ⇄ DH2 ⇄ DH3 ⇄ BYPASS

- 2 チャンネルモードの設定（2 チャンネルソースのみ DOLBY H モード選択後、再度サラウンドパラメーターボタンを押すと選択できます。）

< CINEMA >

CINEMA ←→ MUSIC

※ 通常の 2ch ステレオで再生したい場合は、サラウンドモードボタンを押し“STEREO”または“DIRECT”モードを選択します。
ヘッドホン使用時は、サラウンドモードボタンを押すごとに下記のように切り替わります。

DOLBY H → STEREO → DIRECT → DOLBY H



### サラウンドパラメーターについて③

**DOLBY H（ドルビーヘッドホンモード）**

**DH1** ……… リファレンスルーム
（小さな残響音の少ない部屋）

**DH2** ……… ライブな部屋
（DH1 よりやや残響間の多い部屋）

**DH3** ……… 大きな部屋
（DH1 より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）

**BYPASS** … ステレオ再生になります。

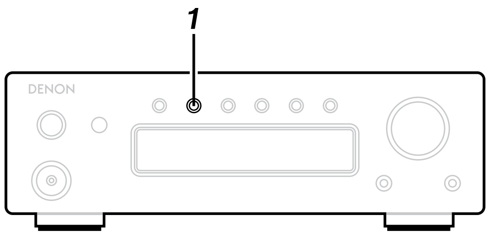
**2 チャンネルモード**

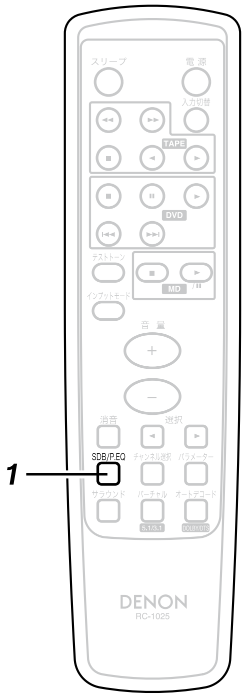
アナログ、PCM など 2 チャンネルソースを再生中に選択できます。下記デコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。

**CINEMA** … ドルビープロロジック II シネマモード
**MUSIC** …… ドルビープロロジック II ミュージックモード

# その他の操作のしかた

### 1 音質を調節するには




**1** **SDB/ プリセットイコライザーボタンを押します。**

● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

SDB ON → DRC ON → P.EQ1 → P.EQ2 → P.EQ3 → P.EQ4 → P.EQ5 → DEFEAT → SDB ON

**お好みに合わせて選択します。**

◎ **DEFEAT 表示のとき**
SDB、DRC、プリセットイコライザーとも OFF になります。

◎ **SDB ON のとき**
SDB（スーパーダイナミックバス）を ON にし、迫力ある重低音が楽しめます。

◎ **DRC ON のとき**
DRC（ダイナミックレンジコンプレッション）を ON にします。ドルビーデジタル、DTS 音声のダイナミックレンジを抑え、深夜など小さな音量で再生するときに便利です。（DTS ソースの場合、DRC 対応のソフトのみ表示されます。
ソフトによっては効果がわかりにくい場合があります。）

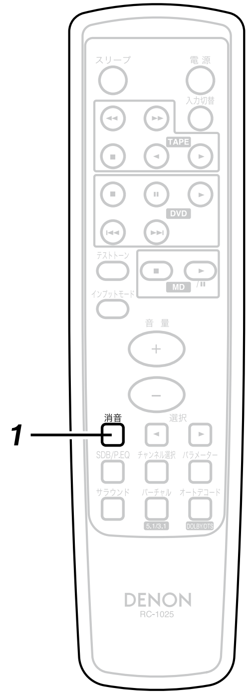
◎ **P.EQ1 ～ 5（プリセットイコライザー 1 ～ 5 のとき）**
低音と高音のバランスとサラウンドチャンネルのディレイを 5 種類プリセットしました。お好みに応じて選択して下さい。

**P.EQ1：** ロックに向いた音
**P.EQ2：** ポップスに向いた音
**P.EQ3：** ボーカルに向いた音
**P.EQ4：** ジャズに向いた音
**P.EQ5：** クラシックに向いた音

※ 各表示で約 4 秒間操作しないとディスプレイ表示は元の表示に戻ります。



### 2 一時的に音を消すには（ミューティング）




**1** **消音ボタンを押します。**

※ 解除するときは、もう一度、消音ボタンを押してください。

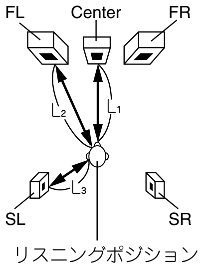
**ご注意**

- 本体の MASTER VOLUME つまみやリモコンの音量ボタンを操作すると解除されます。
- 本機の電源を OFF にすると設定が解除されます。

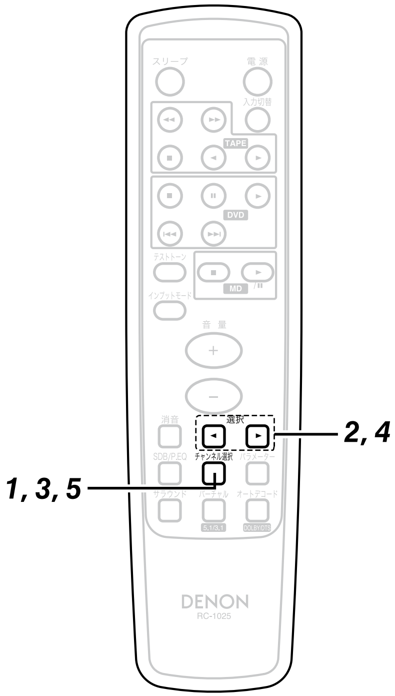
**3 ディレイタイムの設定（距離の設定）**

より正確なサラウンド再生をおこなうためには、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
工場出荷時は 17 ページ『クイックセットアップ』のルーム設定で設定されています。

**準備 :** リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図の L1 〜 L3）を測定します。




L1： センタースピーカーと
リスニングポジションとの距離
L2： フロントスピーカーと
リスニングポジションとの距離
L3： サラウンドスピーカーと
リスニングポジションとの距離




## 1 リモコンのチャンネル選択ボタンを押します。

- 下記が表示されます。

```
LEVEL</>DELAY
```

## 2 上記表示中に選択 ▶ ボタンで DELAY を選択します。

- 下記のレベル表示となります。

```
FRT/SW< 1.8m>
```

## 3 リモコンのチャンネル選択ボタンを押し、距離設定するスピーカーを選択します。

※ チャンネル選択ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

→ フロント/SW → センター → サラウンド → (END) → (フロント/SW に戻る)

- サラウンドモードによって、選択できるスピーカーが異なります。

## 4 ディレイタイム表示中に選択 ◀,▶ ボタンでスピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。

- セレクトボタン（◀,▶）を押すたびに数値が 0.3m 単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択してください。

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも 4.5m 以下にしてください。
不適切な距離を設定すると距離表示が点滅しますので、スピーカーの位置を変更して再設定してください。

## 5 設定が終了したらチャンネル選択ボタンで END を選択します。数秒間操作しないと終了します。

- 表示が通常状態に戻ります。

操作のしかた

**リニア PCM96kHz ソースの場合について**

- 自動的に『DIRECT』モードで再生されます。
- サラウンドモードは『STEREO』および『DIRECT』モードのみ選択できます。

## サラウンドパラメーター一覧表（1）

○：再生信号あり。または選択可能　　×：再生信号なし。または選択不可能

| サラウンドモード | | 各モードにおける信号の有無と制御の可否 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | スピーカー | | | スピーカー / プリアウト |
| | | Front L / R | Center | Surround L / R | Sub Woofer |
| オートデコード | ドルビーデジタル | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | DTS サラウンド | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | DTS96 / 24 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | MPEG2-AAC | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ドルビープロロジックⅡ シネマ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ドルビープロロジックⅡ ミュージック | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ドルビープロロジックⅡ ゲーム | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | オートステレオ | ○ | × | × | × |
| DVS(※1) | 2 スピーカーモード | ○ | × | × | ○ |
| | 3 スピーカーモード | ○ | ○ | × | ○ |
| | 5 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ |
| DH(※2) | ドルビーヘッドフォン 1 | ○（H/P のみ） | × | × | × |
| | ドルビーヘッドフォン 2 | ○（H/P のみ） | × | × | × |
| | ドルビーヘッドフォン 3 | ○（H/P のみ） | × | × | × |
| | Bypass | ○（H/P のみ） | × | × | × |
| ステレオ | | ○ | × | × | ○ |
| ダイレクト | | ○ | × | × | ○ |
| 5 チャンネルステレオ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ホール | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シネマ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| コンサート | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ゲーム | | ○ | ○ | ○ | ○ |



## サラウンドパラメーター一覧表（2）

| サラウンドモード | | 入力信号 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | デジタル | | | | | | | | | アナログ |
| | | ドルビーデジタル信号再生時 | | DTS 信号再生時 | | | AAC 信号再生時 | | PCM 信号再生時 | | |
| | | 2 ch | マルチ | 2 ch | マルチ | Fs: 96kHz | 2 ch | マルチ | 2 ch | Fs: 96kHz | |
| オートデコード | ドルビーデジタル | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | DTS サラウンド | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × |
| | DTS96 / 24 | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × |
| | MPEG2-AAC | × | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × |
| | ドルビープロロジックⅡ シネマ | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | ○ |
| | ドルビープロロジックⅡ ミュージック | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | ○ |
| | ドルビープロロジックⅡ ゲーム | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | ○ |
| | オートステレオ | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | × |
| DVS(※1) | 2 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | 3 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | 5 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| DH(※2) | ドルビーヘッドフォン 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | ドルビーヘッドフォン 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | ドルビーヘッドフォン 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| | Bypass | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| ステレオ | | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ | ○ |
| ダイレクト | | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ | ○ (D.Mix) | ○ | ○ | ○ |
| 5 チャンネルステレオ | | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ |
| ホール | | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ |
| シネマ | | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ |
| コンサート | | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ |
| ゲーム | | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ |

※ 1：ドルビーバーチャルスピーカー　　※ 2：ドルビーヘッドフォン

## サラウンドパラメーター一覧表（3）

| サラウンドモード | | パラメーター | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | SDB/P.EQ（初期設定：DEFEAT=全て OFF） | | | サラウンドパラメーター | | | | | | |
| | | | | | 多重信号（1+1）（※ 4） | | | DVS Mode | | PLⅡ Mode（※ 5） | |
| | | SDB ON | DRC ON（※ 3） | P.EQ 1-5 | Main | Sub | Main/Sub | Ref. | Wide | Cinema | Music |
| オートデコード | ドルビーデジタル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - |
| | DTS サラウンド | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| | DTS96 / 24 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| | MPEG2-AAC | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - |
| | ドルビープロロジックⅡ シネマ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| | ドルビープロロジックⅡ ミュージック | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| | ドルビープロロジックⅡ ゲーム | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | オートステレオ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - |
| DVS(※ 1) | 2 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - |
| | 3 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - |
| | 5 スピーカーモード | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | - | - |
| DH(※ 2) | ドルビーヘッドフォン 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ |
| | ドルビーヘッドフォン 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ |
| | ドルビーヘッドフォン 3 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ |
| | Bypass | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | × | × |
| ステレオ | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| ダイレクト | | × | × | × | - | - | - | - | - | - | - |
| 5 チャンネルステレオ | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| ホール | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| シネマ | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| コンサート | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |
| ゲーム | | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - |



○：選択可能
×：選択不可能
—：該当せず
※ 1：ドルビーバーチャルスピーカー
※ 2：ドルビーヘッドフォン
※ 3：ドルビーおよび DTS の DRC（ダイナミックレンジ圧縮）対応ソフトのみ選択可能
※ 4：ドルビーおよび AAC の多重信号（信号フォーマット：1+1）対応ソフトのみ選択可能
※ 5：PCM、DOLBY/DTS/AAC（信号フォーマット：2/0/0）ソフトのみ選択可能

## サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

## ドルビーサラウンドについて

### 1 ドルビーデジタル

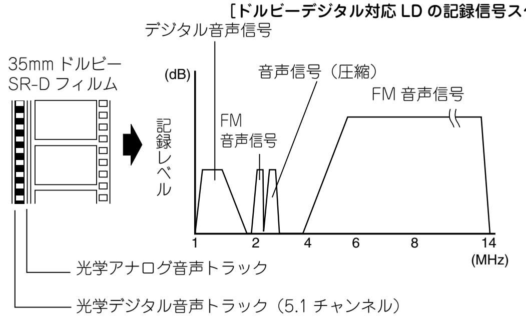
◎ ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは CD と同等以上の再生帯域（高域は 20kHz 以上再生可）を持つフロント 3ch（フロント左（FL）、フロント右（FR）、センター（C））とサラウンド 2ch（サラウンド左（SL）、サラウンド右（SR））に加え、低域（～ 120Hz）効果音専用の LFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計 5.1ch に対応しており、更にモノラル 1ch やステレオ 2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。

◎ また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によって CD の半分以下のデータ量(最大 640kbps)にて伝送可能といった特徴を持っています。

◎ この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル)』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアである LD、DVD などは、AV ルームで DOLBY SR-D のサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

## 【SR-D とドルビーデジタルの関係】

［ドルビーデジタル対応 LD の記録信号スペクトラム］




## 【ドルビーデジタルとドルビープロロジック】

| 家庭用サラウンド方式比較 | ドルビーデジタル | ドルビー・プロロジック |
|---|---|---|
| 記録（素材）ch 数 | 5.1ch | 2ch |
| 再生 ch 数 | 5.1ch | 4ch |
| 再生 ch 構成（MAX） | L, R, C, SL, SR, SW | L,R,C,S（SW は推奨） |
| 音声処理 | デジタル・ディスクリート処理<br>ドルビーデジタル　エンコード、デコード | アナログ・マトリックス処理<br>ドルビーサラウンド |
| サラウンド ch の<br>高域再生限界 | 20kHz | 7kHz |

## ■ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法

ドルビーデジタル対応マーク：

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

| メディア | ドルビーデジタル出力端子 | 再生方法（参照ページ） |
|---|---|---|
| LD（VDP） | ドルビーデジタル RF 出力<br>専用同軸端子<br>**（注 1）** | 入力モードを『AUTO』に設定します。（24、25 ページ参照） |
| DVD | 光または同軸デジタル出力<br>（PCM と共通） | 入力モードを『AUTO』に設定します。（24、25 ページ参照） |
| その他<br>（衛星放送、CATV など） | 光または同軸デジタル出力<br>（PCM と共通） | 入力モードを『AUTO』に設定します。（24、25 ページ参照） |

**注 1:** デジタル入力端子にドルビーデジタル RF 出力信号を接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

操作のしかた

### 2 ドルビープロロジック II

◎ ドルビープロロジック II は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも 5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20 ～ 20kHz 以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンド L（左）＝サラウンド R（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（34、35 ページ参照）

※ **“ドルビーサラウンド録音されたソース”** とは

- 3ch 以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって 2ch の信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオ VTR で再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CS などのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジック II デコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には 2 種類あります。
  ① PCM ステレオ 2ch 信号
  ② ドルビーデジタル 2ch 信号
  いずれの信号が本機に入力されても『AUTO DECODE』モードで 2CH モードを『プロロジック II』に選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジック II』となります。

## ■ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク：

## DTS デジタルサラウンドについて

DTS デジタルサラウンド（または単に DTS と呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SR の 5ch に加えて LFE 0.1ch を持つ 5.1ch で、他にステレオ 2ch モードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTS はドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LD で 1234kbps、DVD は 1536kbps か 768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においての DTS 再生は、フィルムと同期をとった CD-ROM を別途再生する方法がとられています。
もちろん LD や DVD においてはそういった心配はなく、1 枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアには DTS 録音された CD があります。これは従来の（2ch 録音された）CD と同様のメディアに 5.1ch のサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CD プレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTS によるサラウンドトラック再生も映画館と AV ルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

### ■DTS 対応メディアとその再生方法

DTS 対応マーク：(DIGITAL SURROUND dts) または (dts)
以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

| メディア | DTS デジタル出力端子 | 再生方法（参照ページ） |
|---|---|---|
| CD | 光または同軸デジタル出力（PCM と共通）**（注 2）** | 入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（24、25 ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注 1）** |
| LD（VDP） | 光または同軸デジタル出力（PCM と共通）**（注 2）** | 入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します 24、25 ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注 1）** |
| DVD | 光または同軸デジタル出力（PCM と共通）**（注 2）** | 入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（24、25 ページ参照）。 |

操作のしかた

**注 1:** CD や LD の DTS 信号は、通常の CD や LD における PCM 信号がそのまま DTS 信号に置き換わった形で記録されています。そのため CD、LD プレーヤーのアナログ出力からは DTS 信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTS で記録された CD や LD を再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。DVD プレーヤーや LD/DVD コンパチプレーヤーで CD や LD の再生をおこなうときも同様です。なお DVD メディアの場合は、DTS 信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

**注 2:** CD または LD プレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤って DTS 信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめて DTS 再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTS ディスクの再生を開始すると本機の DTS インジケーター（25 ページ参照）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

**注 3:** DVD の DTS メディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちの DVD プレーヤーが DTS 対応であるかは DVD プレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

## DTS-96 / 24 について

現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング･ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit　5.1ch などの高品質な信号ソースが増加しています。例えば、DVD-Video における高音質録音ソースとしては、96kHz/24bit のステレオ PCM 音声トラックをもつものがあります。
しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため 2ch の収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざるを得なく静止画像のみの収録が一般的です。
また、DVD-Audio では 96kHz/24bit の 5.1ch サラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生には DVD-Audio プレーヤーが必要です。
DTS 96/24 はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が 48kHz または 44.1kHz であったため再生信号周波数の上限は 20kHz 程度で留まっていたのに対して、DTS 96/24 ではサンプリング周波数を 96kHz または 88.2kHz に引き上げることにより、40kHz を超える広い周波数帯域を実現しています。
また 24bit の分解能を持ち、96kHz/24bit の PCM と同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。
DTS 96/24 は、従来の DTS サラウンドと同様に最大 5.1ch まで対応しており、DTS 96/24 を用いて録音されたソースは DVD-Video や CD といった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。
従って、DTS 96/24 は従来の DVD-Video プレーヤー（※ 1）を使用して、DVD-Audio と同等の 96kHz/24bit マルチチャンネルサラウンドを、DVD-Video の映像と共に楽しむことができます。また DTS 96/24 対応 CD メディアの場合、一般的な CD/LD プレーヤー（※ 1）を使用して 88.2kHz/24bit マルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。
このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来の DTS サラウンドソースと変わりません。
さらに、DTS 96/24 は従来の DTS サラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24 の信号ソースは、従来の DTS または DTS-ES サラウンドデコーダーにおいても、48kHz または 44.1kHz の周波数帯域での再生が可能です（※ 2）。

※ 1: DTS デジタル出力に対応した DVD プレーヤー（CD/LD プレーヤーの場合、従来の DTS-CD/LD メディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24 にて収録されたメディアが必要です。
※ 2: 分解能は、そのデコーダーによって 24bit または 20bit となります。

操作のしかた

## AAC について

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）は MPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルや MP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか 96kbps という低ビットレートで、CD 並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本の BS デジタル放送における 5.1ch サラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AAC は元々映像信号と音声信号の複合データである MPEG データの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSR プロファイルという 3 種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AAC のスペック（概要）】

- アルゴリズム：　MAIN プロファイル
  LC(Low Complexity) プロファイル
  SSR(Scalable Sampling Rate) プロファイル
- サンプリング周波数：8kHz から 96kHz まで対応
- チャンネル数：　最大 48 チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：　LFE(Low Frequency Effect) サポート
  マルチリンガル ( 複数言語 ) サポート

この中で本機は、BS デジタル放送にて使用される 32kHz から 48kHz までのサンプリング周波数と、LC プロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大 5.1ch のデータに対応します。

※ MPEG による音声規格は他に Layer-1,2,3 等がありますが、それらと AAC の間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べた AAC の再生に対応します。
◎ 以下が AAC に関する米国パテントナンバーです。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 08/937,950 | 5 297 236 | 5,481,614 | 5,490,170 |
| 5848391 | 4,914,701 | 5,592,584 | 5,264,846 |
| 5,291,557 | 5,235,671 | 5,781,888 | 5,268,685 |
| 5,451,954 | 07/640,550 | 08/039,478 | 5,375,189 |
| 5 400 433 | 5,579,430 | 08/211,547 | 5,581,654 |
| 5,222,189 | 08/678,666 | 5,703,999 | 05-183,988 |
| 5,357,594 | 98/03037 | 08/557,046 | 5,548,574 |
| 5 752 225 | 97/02875 | 08/894,844 | 08/506,729 |
| 5,394,473 | 97/02874 | 5,299,238 | 08/576,495 |
| 5,583,962 | 98/03036 | 5,299,239 | 5,717,821 |
| 5,274,740 | 5,227,788 | 5,299,240 | 08/392,756 |
| 5,633,981 | 5,285,498 | 5,197,087 | |

## ドルビーバーチャルスピーカーについて

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント 2 チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

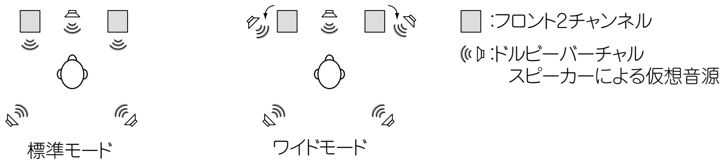
■ ドルビーバーチャルスピーカーの特長

◎ 正確なサラウンド音場定位
仮想サラウンドスピーカーの位置は、左方向に 105° 右方向に 105° として処理されます。

◎ マルチチャンネルプログラムを制作者の意図通りに再生
各チャンネルの音はミキシング時に設定された位置に再生されます。例えば左後方に設定されたものは左後方から聞こえます。

◎ ステレオプログラムがサラウンドに
ドルビープロロジックⅡとの連携動作によりステレオプログラムからも豊かなサラウンド音場を創造します。

◎ リスニングモード選択
標準（REFERENCE）モードとワイド（WIDE）モードが提供されます。




本機ではスピーカー構成を変更した場合も、下記のドルビーバーチャルスピーカーモード再生に対応しています。

- 3 スピーカー（フロント 2 チャンネル + センター）：標準 / ワイドモード
- 5 スピーカー（フロント 2 チャンネル + センター + サラウンド 2 チャンネル）：ワイドモード

## ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。
元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中でなってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシミュレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ / ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。
ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

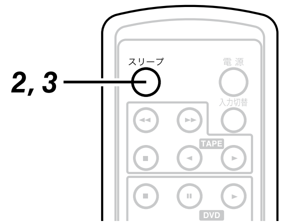


## スリープタイマーについて

### ■スリープタイマーの予約のしかた（リモコンのみ）

付属のリモコンを使用して、電源をスタンバイ状態にする時間を最大 120 分まで設定できます。（スリープタイマー）
設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】50 分後に電源をスタンバイになるように設定するとき




**1 お好みのファンクションを選び、再生します。**

**2 スリープボタンを押します。**

- “120” が表示され、“SLEEP” 表示が点滅します。




※ スリープボタンを押すたびに、表示が次のように切り替わります。

→120→90→60→50→40→30→20→10
“SLEEP”表示消灯

**3 “SLEEP” 表示が点滅している間に、さらにスリープボタンを押し “50” を表示させます。**

- “50” が表示され、“SLEEP” 表示が点滅します。




- 約 5 秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り、“スリープ” 表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定が完了します。）

**4 “50 分後に電源がスタンバイになります。**

※ **スリープ動作中（“SLEEP” 表示中）にスリープボタンを押す**とスタンバイ状態になるまでの残り時間を表示します。この状態でさらにスリープボタンを押すと設定時間が “120” に戻ります。

※ **スリープタイマーを止めるとき**は、“SLEEP” 表示が消灯するまでスリープボタンをくり返し押してください。また、本機またはリモコンの電源ボタンを押して、システム全体の電源をスタンバイにしたときもスリープタイマーを止めることができます。

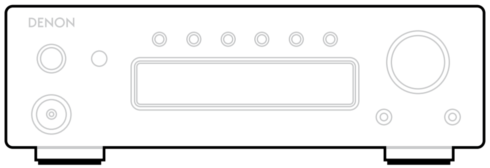
## システム機能について

本機を D-M33 シリーズの MD レコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、さらに使いやすさが向上します。（接続のしかたは、20、21 ページの『D-M33 シリーズ機器とのシステムの接続のしかた』を参照してください。）
本機と組み合わせてシステム動作ができるのは上記機器に限られます。

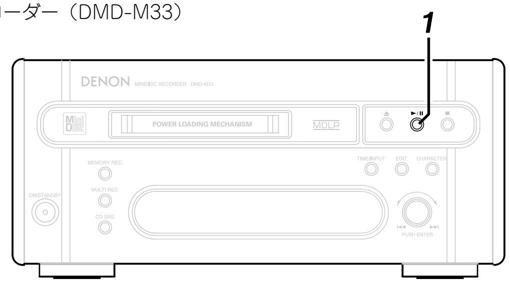
## オートパワーオン機能

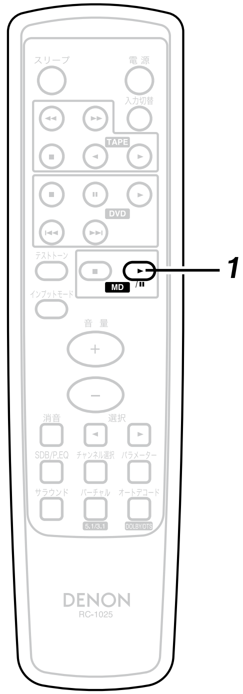
電源がスタンバイ状態のとき、MD レコーダー本体のプレイボタン（▶）またはリモコンの MD プレイボタン（▶）を押すだけで MD レコーダーと本機の電源が入り、MD レコーダーにディスクが装着されていればディスクの再生をおこなうことができます。

本機（AVC-M380）




MD レコーダー（DMD-M33）




**1 本機と MD レコーダーがスタンバイ状態のとき、本体のプレイボタンまたはリモコンの MD プレイボタンを押すだけで、本機と MD レコーダーの電源が入ります。**ディスクが装着されている場合は、ディスクの再生をはじめます。

- D-M33 シリーズのカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、同様にリモコンのプレイボタンでオートパワーオン機能が働きます。カセットテープが入っている場合は、カセットデッキのプレイボタンでも働きます。

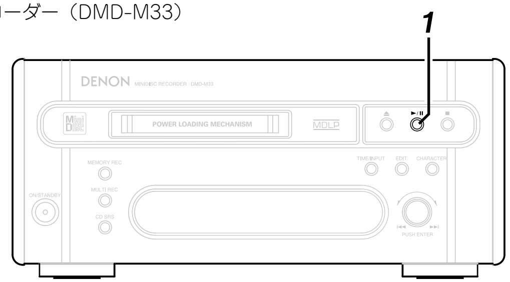
**システムパワーオフ機能**
本機の電源をスタンバイにすると、システム接続された機器すべての電源がスタンバイになります。

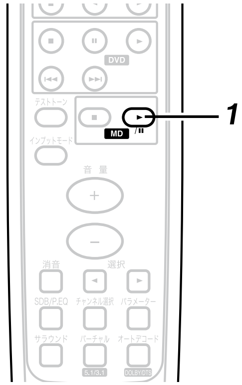


## オートファンクション機能

ボタン 1 つの操作でファンクションを『MD』に切り替えて、ディスクの再生をおこなうことができます。

MD レコーダー（DMD-M33）




**1 本機以外の機器（カセットデッキ）の再生中に MD 本体のプレイボタンまたはリモコンの MD プレイボタンを押します。**
- 本機のファンクションが『MD』に切り替わり、ディスクが装着されていればディスクの再生をはじめます。

- D-M33 シリーズのカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、リモコンのプレイボタンで同様にオートファンクション機能が働きます。カセットテープが入っている場合は、カセットデッキのプレイボタンでも働きます。
- TV/AUX1 や MD/AUX2 に接続された機器に対しては、オートファンクション機能は働きません。

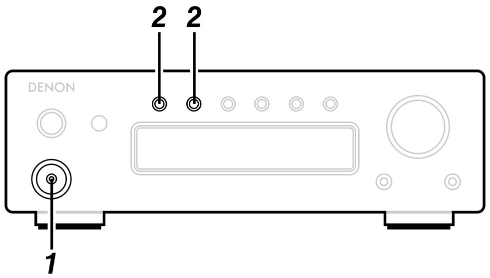
# その他について

## ラストファンクションメモリーについて

本機には電源を OFF にする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源を ON にすると、電源を OFF にする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源が OFF になったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態を保持することができます。

## マイコンの初期化について

本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。




ご注意
- 操作 ***3*** の状態にならない場合は、もう一度操作 ***1*** からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンやセットアップの設定内容がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

**1** **電源ボタンを押してスタンバイ状態にします。**

**2** **10 秒以上たってから本機のサラウンドモードボタンを押し、SDB/ プリセットイコライザーボタンを押してから、再度、サラウンドモードボタンを 2 秒以上押します。**

**3** **数秒後、ディスプレイ表示に『INITIALIZE』と表示され電源が入ります。**
- マイコンが初期化されます。

## 故障かな？と思ったら

### ❏ 各接続は正しいですか
### ❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
### ❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

| 現　象 | 原　因 | 処　置 | 関連ページ |
|---|---|---|---|
| 電源を入れても、ディスプレイが点灯せず、音も出ない。 | ● 電源コードの差し込みが不完全である。 | ● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。 | 21 |
| ディスプレイは点灯するが、音が出ない。 | ● スピーカーコード接続が不完全である。 | ● しっかり接続してください。 | 14 |
| | ● 入力切り替えつまみの位置が不適当である。 | ● 正しい位置に切り替えて下さい。 | 24 |
| | ● 主音量調節つまみが絞ってある。 | ● 適当な位置まで回してください。 | 19、22 |
| | ● ミューティングがかかっている。 | ● ミューティングを解除してください。 | 32 |
| | ● デジタル信号が入力されていない。 | ● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。 | 26 |
| | ● パワーアンプの保護回路が動作している。 | ● 電源プラグを抜いて配線や接続を確認してください。 | 14、15 |
| ディスプレイの音量表示が点滅している。 | ● 本体の温度上昇による保護回路が動作している。 | ● 電源プラグを抜いて本体が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。 | 14 |
| モニターが映らない。 | ● 出力機器の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 | ● 接続が正しいか確認してください。 | 18 |
| | ● モニターの入力設定が違う。 | ● 映像を入力した端子にモニターの入力を切り替えてください。 | 18 |
| DTS 音声信号が出ない。 | ● DVD プレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 | ● DVD プレーヤーの初期設定をしてください。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 | − |
| | ● DVD プレーヤーが DTS に対応していない。 | ● DTS 対応のプレーヤーを使用してください。 | − |
| | ● 本機の入力設定がアナログになっている。 | ● AUTO または DTS に設定してください。 | 24 |
| DVD から VCR にダビングできない。 | ● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。 | ● コピーはできません。 | − |
| サブウーハーが鳴らない。 | ● サブウーハーの出力が接続されていない。 | ● 正しく接続してください。 | 14 |
| テストトーンが出ない。 | ● サラウンドモードがオートデコード以外のモードになっている。 | ● オートデコードモードにしてください。 | 22 |
| リモコンを操作しても正常に動作しない。 | ● 乾電池が消耗している。 | ● 新しい乾電池と交換してください。 | 12 |
| | ● リモコンの距離が離れ過ぎている。 | ● 近づいて操作してください。 | 12 |
| | ● 本体とリモコンの間に障害物がある。 | ● 障害物を取り除いてください。 | 12 |
| | ● 操作したいボタン以外のボタンを押している。 | ● 操作したいボタンを押してください。 | 13 |
| | ● 乾電池の ⊕、⊖ が正しくセットされていない。 | ● 乾電池を正しくセットしてください。 | 12 |
| AAC 表示が点灯しない。 | ● BS デジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。 | ● デジタル接続にしてください。 | 19 |

**ご注意**

AV サラウンドアンプ（AVC-M380）は小型で高出力アンプ搭載のため、内蔵の空冷ファンを動作させ、内部温度を下げるよう設計されています。
異常により温度が高くなった場合は保護回路が働き、スピーカーからの出力が制限されます。（ディスプレイのボリューム表示が点滅します。さらに温度が高くなると電源がスタンバイになり、電源表示インジケーターが赤色に点滅します。）
本体が熱くなり音声が出力されなくなった場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いた上で本書 5 ページ『設置の際のご注意』に従い、きちんと設置されているかを確認してください。
設置、接続に問題がない場合は故障が考えられますので、電源プラグをコンセントから抜いたまま弊社のお客様相談窓口にご連絡ください。

# 主な仕様

## AV サラウンドアンプ（AVC-M380）

| | | |
|---|---|---|
| **実用最大出力 :** | フロント： | 20W ＋ 20W（負荷 6 Ω、JEITA） |
| | センター： | 20W（負荷 6 Ω、JEITA） |
| | サラウンド： | 20W ＋ 20W（負荷 6 Ω、JEITA） |
| | サブウーハー： | 20W（負荷 6 Ω、JEITA） |
| **出力端子 :** | 6 Ω～ 16 Ω | |
| **入力感度 :** | 300mV/47k Ω（PORTABLE 除く）、150mV/47k Ω（PORTABLE） | |
| **周波数特性 :** | 10Hz～50kHz：＋1.5、－3dB（アナログ入力ダイレクトモード時、総合） | |
| **S/N 比 :** | 90dB（アナログ入力ダイレクトモード時） | |
| **プリアウト定格出力 :** | 0.6V | |
| **電源 :** | AC100V　50/60Hz | |
| **消費電力 :** | 電源入り（ON）時：70W（電気用品安全法による）<br>待機（スタンバイ）時： 1W 以下 | |
| **最大外形寸法 :** | 210（幅）× 70（高さ）× 325（奥行き）mm<br>（フット・つまみ・端子を含む） | |
| **質量 :** | 3.9kg | |

### ❏ リモコン（RC-1025）

| | |
|---|---|
| **リモコン方式 :** | 赤外線パルス式 |
| **乾電池 :** | R03/AAA（単 4 形）乾電池 2 本使用 |
| **最大外形寸法 :** | 46（幅）× 180（高さ）× 28（奥行き）mm |
| **質量 :** | 100g（乾電池を含む） |



## スピーカーシステムパック SYS-M380 （SC-AM380、SC-CM380、DSW-M380）

### ❏ フロント / サラウンド用スピーカー（SC-AM380）

| | |
|---|---|
| **形式 :** | フルレンジ、密閉型、防磁設計、ブックシェルフ |
| **再生周波数帯域 :** | 120Hz ～ 20kHz |
| **入力インピーダンス :** | 6 Ω |
| **最大許容入力 :** | 30W（JEITA）、80W（PEAK） |
| **スピーカーユニット :** | 8cm コーン形× 1 |
| **最大外形寸法 :** | 98（幅）× 140（高さ）× 105（奥行き）mm<br>（サランネット、DENON マークを含む） |
| **質量 :** | 0.9kg（1 台当り） |

### ❏ センター用スピーカー（SC-CM380）

| | |
|---|---|
| **形式 :** | フルレンジ、密閉型、防磁設計、センター |
| **再生周波数帯域 :** | 120Hz ～ 20kHz |
| **入力インピーダンス :** | 6 Ω |
| **最大許容入力 :** | 30W（JEITA）、80W（PEAK） |
| **スピーカーユニット :** | 8cm コーン形× 2 |
| **最大外形寸法 :** | 210（幅）× 98（高さ）× 105（奥行き）mm<br>（サランネット、DENON マークを含む） |
| **質量 :** | 1.4kg（1 台当り） |

### ❏ サブウーハー（DSW-M380）

| | |
|---|---|
| **形式 :** | 1 ウェイ・1 スピーカー、バスレフ型、防磁設計 |
| **再生周波数帯域 :** | 30Hz ～ 240Hz |
| **最大入力 :** | 60W（JEITA）、120W(PEAK) |
| **入力インピーダンス :** | 6 Ω |
| **スピーカーユニット :** | 16cm コーン型× 1 |
| **最大外形寸法 :** | 135（幅）× 420（高さ）× 304（奥行き）mm<br>（DENON マークを含む） |
| **質量 :** | 5.5kg（1 台当り） |

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

**後日のために記入しておいてください。**

| | |
|---|---|
| 購入店名： | 電話（　　-　　-　　） |
| ご購入年月日：　　年　　月　　日 | |

Printed in China　00D 511 4675 009